

令和 6 年度
(2024年度)

事業報告書

社会福祉法人 緑水会

指定介護老人福祉施設 桧原苑

桧原苑 居宅介護支援事業所

社会福祉法人 緑水会

理事会・評議員会・監事会の開催

各事業所の運営状況報告を受け、今後の事業の方向性の検討、各事業所の事業計画・予算及び補正予算、事業報告・決算、変更に伴う諸規程類の改正等について審議を行った。

下記のとおり理事会7回、評議員会3回、監事会1回を開催した。

令和6年度 理事会の開催状況

開催月日	会議名	主要議題
4月12日 (金)	第1回 理事会	ひのきのその建築に係る入札参加条件等について 桧原苑給与規程の一部改正について
5月28日 (火)	第2回 理事会	ひのきのその建築の資金計画及び入札予定価格の変更等について
6月5日 (水)	第3回 理事会	令和5年度 緑水会及び桧原苑事業報告及び会計収支決算報告について 令和5年度 ひのきのその事業報告及び会計収支決算報告について 令和5年度 地域生活支援センターフィレ事業報告及び会計収支決算報告について 令和5年度 監事監査報告について 入札経過の確認及び契約内容について 社会福祉充実計画について 地域生活支援センターフィレ・ひのきのその給与規程の一部改正について 社会福祉法人緑水会評議員会の招集について 理事長職務執行状況報告・第三者評価結果について
10月11日 (金)	第4回 理事会 (書面議決)	第三者委員 退任に伴う後任の第三者委員を選任すること
12月4日 (水)	第5回 理事会	令和6年度 緑水会及び桧原苑第1次補正予算案について 令和6年度 ひのきのその第1次補正予算案について 令和6年度 地域生活支援センターフィレ第1次補正予算案 ひのきのその厨房機器等設備に係る入札条件等について 社会福祉法人緑水会評議員会の招集について 理事長職務執行状況報告

令和7年 2月12日 (水)	第6回 理事会	入札経過の確認及び契約内容について
3月18日 (火)	第7回 理事会	令和6年度 緑水会及び桧原苑第2次補正予算案について 令和6年度 ひのきのその第2次補正予算案について 令和6年度 地域生活支援センターフィレ第2次補正予算案について 令和7年度 緑水会・桧原苑事業計画案及び予算案について 令和7年度 ひのきのその事業計画案及び予算案について 令和7年度 地域生活支援センターフィレ事業計画案及び予算案について ひのきのその建替えに伴う基本財産処分について ひのきのその建築工事工期延長について ひのきのその解体業者選定について ひのきのその運営規程の一部改定について 桧原苑運営規程の一部改定について 社会福祉法人緑水会評議員会の招集について 理事長職務執行状況報告・高齢者虐待に関する調査について

令和6年度 監事会の開催状況

開催月日	会議名	監査状況
6月3日 (月)	第1回 監事会	令和5年度 社会福祉法人緑水会及び各事業所の 事業報告、会計経理処理、収支決算の監査実施

令和6年度 監事の理事会、評議員会出席状況

開催月日	会議名	主要議題
4月12日 (金)	第1回 理事会	第1回理事会議題参照
5月28日 (火)	第2回 理事会	第2回理事会議題参照
6月5日 (水)	第3回 理事会	第3回理事会議題参照 監事監査報告（6月3日実施）
6月25日 (火)	第1回 評議員会	第1回評議員会議題参照 監事監査報告（6月3日実施）
10月11日 (金)	第4回 理事会	第4回理事会議題参照（書面議決）
12月4日 (水)	第5回 理事会	第5回理事会議題参照

12月18日 (水)	第2回 評議員会	第2回評議員会議題参照
令和7年 2月1日 (水)	第6回 理事会	第6回理事会議題参照
3月18日 (火)	第7回 理事会	第7回理事会議題参照
3月28日 (木)	第3回 評議員会	第3回評議員会議題参照

令和6年度 評議員会の開催状況

開催月日	会議名	主要議題
6月25日 (火)	第1回 評議員会	令和5年度緑水会及び桧原苑事業報告及び会計収支決算報告について 令和5年度ひのきのその事業報告及び会計収支決算報告について 令和5年度生活支援センターフィレ事業報告及び会計収支決算報告について 令和5年度監事監査報告 社会福祉充実計画について 理事長職務執行状況報告・第三者評価結果について ひのきのその建築に係る入札経過の確認及び契約内容について
12月18日 (水)	第2回 評議員会	令和6年度 緑水会及び桧原苑第1次補正予算案について 令和6年度 ひのきのその第1次補正予算案について 令和6年度 地域生活支援センターフィレ第1次補正予算案について ひのきのその厨房機器等設備に係る入札条件等について 理事長職務執行状況報告
令和7年 3月28日 (金)	第3回 評議員会	令和5年度緑水会及び桧原苑第2次補正予算案について 令和5年度ひのきのその第2次補正予算案について 令和5年度地域生活支援センターフィレ第2次補正予算について 令和6年度緑水会及び桧原苑事業計画案及び予算案について 令和6年度ひのきのその事業計画案及び予算案について 令和6年度地域生活支援センターフィレ事業計画案及び予算案について 桧原苑・障害者短期入所桧原苑運営規程の一部改正について 理事長職務執行状況報告

社会福祉法人 緑水会

理事、評議員、監事 定数

理	事	6名
評	議	7名
監	事	2名

第三者委員 定数 2名

評議員選任解任委員 定数 3名

経営事業 3施設 16事業

(1) 桜原苑 の経営 (4事業)

東京都西多摩郡檜原村5650-8

- 指定介護老人福祉施設、特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護事業
- 居宅介護支援事業
- 障害者短期入所事業

(2) ひのきのその の経営 (5事業)

東京都西多摩郡檜原村5354-6

- 就労継続支援B型事業
- 障害者等相談支援事業
- 指定特定相談支援事業
- 指定障害児相談支援事業
- 指定一般相談支援事業

(3) 生活支援センターフィレ の経営 (7事業)

東京都あきる野市二宮670番地5 秋川健康会館

- 地域活動支援センターI型事業
- 障害者等基幹相談支援センター事業
- 障害者等相談支援事業
- 指定特定相談支援事業
- 指定障害児相談支援事業
- 指定一般相談支援事業
- 障害者虐待防止センター事業

令和6年度 桜原苑 事業報告

1. 事業実施報告

新型コロナウイルスの感染症上の位置付けの変更（5類感染症）に伴い、あらためて「生活の場」の考えを最優先に、ご家族等との面会再開（飲食可）、近隣外出行事、施設内でご利用者が交流を図る行事なども徐々に再開してきた。そのような中で7月にご利用者及び職員のコロナ陽性が発覚し、ご利用者12名（職員7名）陽性となってしまい、桜原苑の夏祭りは中止となった。また、3月にもご利用者及び職員のコロナ陽性が発覚し、ご利用者33名（職員9名）陽性となってしまった。12月にはインフルエンザの感染もあり、感染防止と生活の場のバランスの難しさを痛感した。

権利擁護（虐待・不適切ケア・身体拘束）では、課題に対する取り組みの強化から、外部講師による研修等を通じて学びを深めた。「コミュニケーション力」「共感力」に着目した人材育成や交流の取り組みは十分とは言えず、接遇マナー向上が新たな課題としてあがり、次年度接遇マナー向上委員会を立ち上げた。

総務課は、介護人材の確保を確実にするため、新たにミャンマー人2名の特定技能外国人を採用した。その他、リスク軽減から特定の職員が行う業務を複数担当制にすると共に、残業代含む光熱費等コスト削減に努めながら、事業が予算に沿って執行されているかを常に把握し、無駄な支出を無くすよう努めた。

相談課は、高い入居率を確保するため、居宅事業所や病院等への営業活動や西多摩特養ガイド等を活用し、入居待機者の確保や迅速な入退居の対応を行った。退居が38名（8名増）の中で入居率：97.37%（昨年度増減なし）と維持することができた。その他、特例入所の入居及び、生計困難者等に対する利用者負担軽減制度を適用し、低所得者の方も入居が可能となるよう努めた。また、人権擁護の推進ためご利用者・ご家族に寄り添った相談援助等を他部署と連携し、きめ細やかに行った。

介護課は、係毎に次の通り取り組みを行った。健康管理係は、主治医及び他職種と連携し、早期受診等の対応に繋げると共に、施設で最期を迎える方に対しご利用者・ご家族の意向に沿いながら看取りケアを行った。また、感染症蔓延防止対策や喀痰吸引等医療的ケアの向上にも努めた。栄養管理係及び調理係は、食材費高騰への取り組みと共に、近隣の畑で育てた野菜や地元で採れた野菜を献立に反映させ、ご利用者や配食サービスを受けている方々が季節を感じてもらえるよう取り組んだ。リハビリ係は、理学療法・音楽療法を定期的に行った。また、生活リハビリ充実のため介護職員への介助方法の提案・指導を行い、ご利用者の生活機能維持向上に努めると共に、社会参加の機会を提供した。生活支援係は、ユニット毎の行事（外出行事含む）・手作りおやつ・季節を感じていただける装飾等を工夫することで、余暇

活動の充実に努めた。また、基本的ケアの標準化の課題から、新たなユニット体制（異動含む）を検討した。

2. ユニットケアの質の向上と看取りケアの強化

暮らしの継続・個別ケアを念頭に引き続き「その人らしさアンケート」を実施し、ご利用者やご家族から生育暦や要望を聞き取り、外出や行事の企画、援助の方法等、心のこもったケアが提供出来るように努めた。ご家族等との面会や飲食、近隣外出や交流等を再開して、コロナ以前の生活の場に戻してきた。重度認知症及び精神疾患・終末期（看取り）を向かえるご利用者などに対し“寄り添うケア”“心地良い空間創り”を提供し、ご利用者・ご家族の満足度を高めるよう心かけた。

3. 権利擁護（虐待防止・不適切ケアの取組み）と事故防止

虐待防止・不適切ケア防止への取組みとして、虐待の芽チェックリスト（入所施設版）や桧原苑不適切ケアチェックリストによる自己点検を定期的に行い、虐待防止・不適切ケアの改善を図った。またユニット職員の異動や職員研修（交流含む）を通じて、相談し合える風土を構築し、“個人として尊重するケア”を提供し、権利が保障される施設創りを目指した。

ご利用者の安全のために人員確認、施設の確認、危険箇所の点検については、徹底してきた。また、見守りセンサーベッドの購入や超低床ベッド等を有効活用や、類似事故リスクの認識向上により、重大事故防止及び軽減に努めた。今年度、保険者に報告する重大事故が23件で（前年度比で3件増）主に骨折や誤薬事故である。そのため重大事故につながる恐れの高い事象を優先的に原因分析・対策を安全対策委員会主導で行うと共に、個々の職員への指導育成に努めた。

4. 経営の安定

経営状況に直結している入居率は、今年度は97.37%で昨年度より増減はなかった。令和5年12月からご利用者の退去が多く、待機者が減少したことから居宅事業所や病院等への営業活動を強化し、施設の入居率を維持することができた。（入居件数は、42名※昨年比15名増・退居件数は、38件※昨年度比8名増）人財確保については、職安や広告媒体及び紹介等を活用し人員配置基準を満たすよう努めた。また、新たに特定技能外国人2名（ミャンマー人）採用することで人財確保に繋がった。コスト面においては、職員全員が「自分の施設」として経営を意識し、光熱水費・物品の取り扱い（破損・故障）・残業を含むコストとしての時間（人件費）など、職員全体で削減に努めた。その他、令和6年介護報酬改定に伴い新たな加算取得にも取り組んだ。

5. 働きやすい職場環境創り

離職に繋がる人間関係の要因を踏まえ「心理的安全性の高い職場」を構築するため、その人に合った伝え方・傾聴と共感・接遇マナーの大切さを伝え、各種会議を通じて広めた。他職種協同連携では、互いの「専門性・役割・責任」を理解しながら、価値観の多様性を念頭に、組織人として職種間の良い関係性を構築できた。

6. 施設サービス計画の充実

施設には、施設サービス計画・個別機能訓練計画・栄養ケア計画・看取りケア計画・経口維持計画などがあり、担当者会議やミニカンファの場を通じて、「根拠」と「結論」をセットで解りやすい内容（納得感を得る）に努めた。また、ご利用者・ご家族の意向・要望・顧客満足度を伺い、『暮らしの継続』『その人の望む生活』を盛り込んだ。サービス担当者会議は、双方の信頼関係を築くために、事前にご要望を伺うと共に、ご利用者及びご家族も出席いただいた。

7. 自ら考えて行動できる人財育成

職員に求められるそれぞれの専門性と役割・責任意識、マネジメント能力の向上に向けた育成のため、階層別研修を実施し人財育成に努めた。また、外部研修では、他法人との交流（体験等）にも努めた。法令研修は、パートを含む全職員を対象に前期（6回）・後期（6回）で計7つのテーマで実施した。

8. 生産性向上と業務の標準化及び効率化

特定の職員しかできない業務や職員によってサービスの質にばらつきがあるといった問題点を解消するため、業務マニュアル（手順書）の追加作成及び見直しを行い、ケアの“見える化”に努め、介護負担軽減・介護力の標準化・離職防止を図った。業務の効率化では、福祉機器展等への参加により、次世代介護機器の導入を検討し、見守りケアシステム M2（フランスベッド）を20台購入した。

9. 職員の資質の向上及び資格取得

職員が講師となり、介護支援専門員・介護福祉士の試験勉強会を定期的に行った。今年度は介護支援専門員の試験に1名、介護福祉士の試験に1名が合格した。また、認定特定行為業務従事者認定（口腔内の喀痰吸引認定）の講習を1名の職員が受けて認定された。

10. 施設環境整備

建物・付属設備・備品等を定期的に点検、不具合箇所等は随時修理を行ってきた。

また、職員全員が5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を意識するよう努め、建物の環境維持を図ってきた。床の清掃については、日々職員が行い美観に努め、綺麗な施設として、見学者などから桧原苑を選んでいただけるよう心かけた。

11. 防災対策（BCP）

防災（消防・震災・その他）訓練は、昼間及び夜間を想定し毎月行うと共に、笹野自治会・地域の消防団と合同災害訓練（地域消火栓使用訓練）を実施した。また災害時の避難所として受け入れに関する注意事項などの情報を共有した。

その他、BCP（事業継続計画）、新型コロナウイルス感染症対策等のマニュアルの見直しや各種訓練を実施すると共に、SNSを活用した緊急連絡の仕組み（LINE WORKS）を活用し、有事の際迅速に対応できるような連絡体制を整え、定期的に参集訓練を実施した。

12. 檜原村（行政・地域）との連携

檜原村主催の介護認定審査会・介護保険運営協議会等に桧原苑として出席し、行政との連携を図った。檜原村や檜原村社会福祉協議会からは配食サービス事業の委託を受け、デイサービスに通所している方々や在宅で過ごしている高齢者の方々に食事の提供を行った。その他、檜原小中学校の児童や生徒を施設に招いてのご利用者との交流を実施した。

13. 第三者評価の受審

評価機関「（株）シーサポート」により、第三者評価を実施した。ご利用者からの聞き取り調査、ご家族アンケート、職員アンケート、施設訪問調査等が行われ、専門的な観点から評価を受けた。結果については、真摯に受け止め、改善を図りサービスの向上に繋げていく。

14. 在宅福祉

当居宅介護支援事業所は、要介護者が住み慣れた地域で生活を続けていけるよう、保険者（市区町村）や檜原村地域包括支援センター、医療機関等と連携を図ってきた。短期入所事業は、今年度も緊急のショートステイの依頼が多く、積極的に受け入れを行い、ご利用者及びご家族の負担が軽減するよう支援に努めてきた。その他、障害者短期入所事業については、今年度もご利用はなかった。

以下、個々のサービス提供状況については各表にて示した。

事業実施概要

令和7年3月31日現在

施設名	開苑年月日	定員	職員数	施設長
(指定介護老人福祉施設) 特別養護老人ホーム松原苑	昭和56年12月2日	120名	92名	渡邊 昇

1. 職員配置状況

(1) 職員配置状況

職種	配置	移動状況				
	現在員	期首員	採用 (異動)	退職 (異動)	期末員	
施設長	1	1			1	
副施設長	0	0			0	
居宅事業担当員	1	1			1	
事務員	3	3	2(2)	2	3	
生活相談員	2	2			2	
介護支援専門員	1	1	1	1(1)	1	
ケアワーカー	41	42	4(1)	5(1)	41	
看護師	3	4	2	3	3	
栄養士	2	2	1	1	2	
調理員	6	6			6	
機能訓練職員	1	1			1	
非常勤職員	ケアワーカー	19	22		3(1)	19
	調理員	3	2	1		3
	看護師	3	1	2		3
	事務員	2	2			2
	シルバー人材	5	5			5
	OT・PT・MT	2	2			2
	内科医	2	2			2
	精神科医	1	1			1
合計	98	100	13	15	98	

() 内は異動職員数

(2) 資格等保持者の状況

資格等種類	現在員	令和6年度 取得者
社会福祉士	2	0
介護福祉士	45(39)	1
介護支援専門員	7(1)	1
社会福祉主事	8(2)	0
保険請求事務	1	0
介護職員実務者 研修終了	18(16)	1
ヘルパー1級	0	0
介護職員初任者 研修終了	0	0
ヘルパー2級	20(18)	0
看護師	5	0
准看護師	1	0
管理栄養士	3	0
栄養士	1	0
調理師	6(2)	0
保育士	0	0
アセスサー (評価者)	11(9)	0
レベル認定者	9(7)	0
喀痰吸引	38(32)	1
計		4

() 内は介護職員数

施設内諸活動報告

1. 会議・研修・委員会開催状況

(1) 各会議開催状況

名 称	回数	開催日	参 加 職 種
管 理 監 督 者 会 議	12	第2月曜日	理事長 施設長 介護課長 居宅所長
係 長 会 議	12	第2火曜日	理事長 施設長 介護課長 各係長 居宅所長
職 員 全 体 会 議	10	第3水曜日	全職員（各係及びユニット代表の参加）
厨 房 会 議	2	随 時	係長 管理栄養士 調理員（施設長・介護課長）
主 任 会 議	11	第3火曜日	施設長 介護課長 各係長 各主任 他
ユ ニ ッ ト 会 議	94	随 時	各主任又はユニットリーダー ケアワーカー 他
サ-ビ-ス担当者会議	122	随 時	ケアマネ 相談員 ケアワーカー 看護師 管理栄養士 機能訓練指導員 他

(2) 研修参加状況（リモート研修含む）

主 催 者	回 数	参 加 延 人 数						記録の有無
		総 数	施設長	事 務	直接処遇	栄養士	調理員	
東 京 都	1	1			1			有
東 社 協	19	29	4	15	9	1		有
シルバーサービス振興会	0	0						無
東京都福祉保健財団	4	5	1	1	3			有
東京都西多摩保健所	2	2				2		有
檜原村（包括・社協・他）	0	0						無
そ の 他	11	11	2	2	7			有

(3) 職場内研修会開催状況

実 施 月 日	研 修 テ ー マ	対象	講 師 等
4月24日	令和5年度第三者評価について	全職員	評価機関
5月22日	事故防止及び令和5年度事故分析について	全職員	安全対策委員長
6月26日	褥瘡について	全職員	看護師
7月31日	職員倫理規程及び行動指針	全職員	施設長
8月28日	防火・防災の対策について	全職員	防火管理者
9月25日	食中毒について	全職員	管理栄養士
10月23日	感染症の予防と対策について	全職員	看護師
11月27日	看取りケアについて	全職員	生活支援係
3月26日	特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働（たん吸引）12月25日分	全職員	看護師
1月29日	フィッティング研修	全職員	メーカー担当者 介護課長
次年度へ延期	ユニットの取り組みについての報告会 2月26日分	全職員	質の向上小委員会
3月26日	令和6年度事業計画について	全職員	施設長

(4) 各委員会活動状況

委員会名	回数	対象職種	活動内容
入居判定委員会	12	施設長・課長 係長・相談員	原則月1回開催。新規入居申込状況と待機者の確認及び入居順位の検討を行った。入居稼働率、入退居状況の確認を行うとともに積極的な受け入れを審議した。
要望・苦情委員会	12	施設長・課長 係長・代表委員	原則月1回開催。正式な苦情及び口頭での要望にも対処できるよう努め、要望に対する検討も行った。また、不適切ケア項目の見直しや、ご利用者懇談会における意見のフィードバックを行い、サービス向上に努めた。
安全衛生委員会	12	施設長・課長 係長・代表委員	ストレスチェック（メンタルケアの推進）及び定期的な職場環境チェック（設備・環境）を行い、改善が必要と指摘された場合は、修理・保全等を実施し、働きやすい職場作りに努めた。※令和6年度休職者無し ※労災申請者1名※育児休業取得者5名
防災委員会	11	防火管理者 施設長 代表委員	火災や地震等による災害からご利用者を守り、また未然に防ぐため、実践に即した防災訓練や図上訓練を実施した。その他、住民受け入れ訓練や笹野地区との合同避難訓練、防犯に関する訓練を実施した。12月は感染症発生に伴い未開催となった。
研修委員会	11	課長 各部署代表委員	令和5年度より改定した職員研修体系を基とした研修を実施。新人研修では、より理解度が高まることを目的とし、入職後からの期間に応じ、3回に分けた開催により理解が深まった。法定研修についても規定通り行えた。3月は感染症蔓延のため委員会は未開催となった。
安全対策委員会	12	課長 各部署代表委員	令和5年度下半期から運用を開始した影響度分類は理解度が深まった事で定着し、介護事故の防止・減少を目的に、発生した事故や想定される事故に対し多職種で検討・対策・モニタリングを行い、対策の検証まで実施した。また、影響度分類を用いて、重大事故の類似事故リスクの認識向上及び事故防止に努めた。
感染症対策委員会	26	施設長・課長 係長・代表委員	新型コロナウイルス5類引き下げに伴い、活動再開についての注意点や、蔓延防止対策などについて話し合った。令和6年7月、令和7年3月新型コロナウイルス、令和6年12月にインフルエンザにご利用者が感染した。職員・ご利用者の陽性判明時には、臨時の委員会を開催し、対策の共有を図った。
虐待防止 身体拘束廃止委員会	13	施設長 課長・係長 代表委員	運営基準に定められた『虐待防止』の対策を検討する委員会、身体拘束廃止委員会と一体的運営を行った。また身体拘束・虐待防止の適正化のための研修を行った。令和6年度身体的虐待1件の虐待認定に伴い、改善に向けた取り組みを施設内で実施している。身体拘束は無かった。
夏祭り実行委員会	5	理事長・施設長 課長・係長 各部署代表委員	お客様を招待しての夏祭り開催を目指し、暑さ対策を踏まえた開催を実行委員会で検討していた。令和6年7月に新型コロナウイルスが蔓延したことにより、残念ながら開催実施に至らなかった。

委員会名	回数	対象職種	活動内容
褥瘡対策委員会	11	課長 各部署代表委員	毎月開催し、情報共有により早めの褥瘡予防に努めた。褥瘡発症者の早期治療に向け、対応の協議・確認を行った。クッションなどの管理は毎月行い、褥瘡疑いの方へ専門職によるポジショニング評価で適切に使用ができた。4名の方が3月末では治療に至らなかった。3月は感染症蔓延に伴い未開催となった。
生産性向上委員会	22	課長 各部署代表委員	【質の向上小委員会】各ユニット年間を通して取り組みを行い2月に発表に向けた資料作りを行った。※発表は感染症対策の為延期。次世代介護機器導入に当たりICT導入に向けた意見交換や、情報共有を行っている。 【マニュアル小委員会】今年度ケアの方針、ガウン着脱、服薬介助の等のマニュアルの見直しを行った。
広報・編集委員会	8	各部署代表委員	「苑だより」を年3回発行。今年度は122号から124号を発行した。また、ホームページで施設の活動を掲載し、地域やご家族等に情報発信を行った。
アクティビティ委員会	4	課長 各部署代表委員	施設全体の行事計画を作成し、感染対策しながら実施した。今年度は花火大会に関し見直しを行い開催している。それ以外の行事も季節感を感じる行事を提供し、ご利用者に楽しんで頂く事が出来た。委員会の開催は必要時に開催し全体行事の進捗状況の確認・役割分担・情報共有などを行った。
外国人介護受入委員会	11	課長 各部署担当者	外国人介護職員の受け入れに伴い、介護指導・生活指導・日本語教育等の課題を整理すると共に情報を共有し、技能実習生・特定技能の体調、生活面の情報共有・各担当の役割・必要物品の選定・職員研修の企画等を行った。令和6年度は新たにミャンマーより特定技能外国人を2名を受入れた。
地産採食プロジェクト	実作業	各部署代表	じゃがいも・里芋・きゅうり・インゲン・大根・白菜・ブロッコリー・人参・ねぎを作りを行った。例年通りの収穫量で、献立に入れ食事提供を行えた。また、地域の方からいただいた袖は袖ピールにして提供を行った。
職員交流プロジェクト	0	各部署代表	外に出での交流を検討していたが、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症に罹患する職員が6月、7月、12月、3月と発生したため、積極的な交流は控え、実交流の実施は行わなかった。
苑内保育プロジェクト	0	施設長 各部署代表	託児室を屋上階に移し長期休暇（ゴールデンウィーク・年末年始）に託児を実施した。また、託児実施に向け必要備品の購入や環境整備をプロジェクトメンバーで実施した。

2. 防災訓練等実施状況

(1) 防災設備、器具等の点検実施状況

点検項目	設備等の区分	点検実施日
破損・変形	消火設備	4/1 5/2 6/3 7/1 8/5 9/2 10/3 11/1 12/5 1/9 2/4 3/4
外観的事項	避難設備	同上
	警報設備	同上
	煙感知機設備	同上
作動・性能 試験・他	警報、消火、避難各設備	4/30 10/28
建築物	建築内外点検	5/1 8/7 11/1 2/1

(2) 防災訓練実施状況

実施月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
避難訓練	◎ BCP	◎	◎	◎ BCP	◎ BCP	☆	◎	◎	◎ BCP	☆	☆	◎	☆ 3 ◎ 9
消火訓練	◎ BCP	◎	◎	◎ BCP	◎ BCP	☆	◎	◎	◎ BCP	☆	☆		☆ 3 ◎ 8
通報訓練	◎ BCP	◎	◎	◎ BCP	◎ BCP	☆	◎	◎	◎ BCP	☆	☆	◎	☆ 3 ◎ 9
消火栓操 法訓練	◎ BCP	◎	◎	◎ BCP	◎ BCP	☆	◎	◎	◎ BCP	☆	☆		☆ 3 ◎ 8
自衛消防 隊員訓練	○	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○ 3

☆ (夜間体制下の訓練) ◎ (昼間訓練) BCP (事業継続計画) ○ 自衛消防隊員訓練

(3) その他の防災訓練実施状況

8月25日に檜原村笹野自治会・檜原村消防団・桧原苑による合同防災訓練を実施し、笹野自治会24名・檜原村消防団3名・桧原苑5名の計32名が参加した。桧原苑の事業継続計画の一部である福祉避難所利用時のお願い事項や、「キキクル※1」の活用方法、放水演習について実施を行った。

6月21日開催の自衛消防訓練技術審査会では、二号消火栓の部に職員2名が出場し、準優勝という成績を収めることができた。

※1 キキクル (危険度分布) とは、警報が発表されたときや強い雨が降ってきたとき、どこで土砂災害や洪水災害の危険度が高まってかを知ることができる、気象庁が管理してる命を守るサイトのこと。

総務課活動報告

1. 総務課活動報告

1) 人事・労務

- ①働きやすい職場創りを考え、諸規程の見直しを必要に応じて行った。
- ②職員に事故が無いよう労働環境に配慮し、安全衛生委員会を通じて職場環境のチェックを実施した。その他必要に応じ修繕及び改善に努めた。
- ③人財確保については、介護業界の人財不足を踏まえ、ホームページや求人媒体を活用した求人活動を行った。令和6年度は新卒採用はなかったものの中途採用（常勤7名、非常勤3名）を行った。また特定技能外国人2名（ミャンマー人）の受入れを行った。引き続き媒体を利用した採用活動により人員配置基準を満たし、減算とならないよう努めると共に、ホームページのリニューアルも視野に広報活動に力を入れていく。
- ④外部研修やリモート研修（自己啓発援助等）については、各課へ研修の情報を提供し、参加の意思を確認、手続きを行うと共に研修参加状況を把握し、人財育成に努めた。

2) 会 計

- ①経理規程に則り、適正な伝票処理及び帳簿の作成、月次報告を行った。
- ②収入、支出の状況を常に把握し、予算に沿った事業が執行されているかの状況把握を行い必要に応じ備品購入、点検、修繕を行った。また、物価高騰による水道光熱費や消耗品費の支出も大きく、施設経営に大きな影響を与えたため、最小限に抑えるよう節電・節約に力を注いだ。
- ③事業計画における行事及びユニット単位の予算執行状況を把握し、物品発注の際は適正な価格であるか確認し手配した。

3) 庶 務

- ①文書管理規程に基づき、各種届出・記録・受付文書等を整理し、保管に努めた。
- ②窓口における接客・対応において、来客者に好印象を持っていただけるよう努めた。

4) 施設管理

- ①防災委員会と連携して、毎月消防訓練計画を消防署に提出し、事業計画に沿って防災訓練（昼間想定消防訓練・夜間想定消防訓練・震災訓練・不審者対策訓練）を実施した。また、BCP（事業継続計画）の施設マニュアル作成と更新を行った。
- ②施設内外の設備定期点検を実施し、保安管理に努めると共に、安全性の向上を図った。
- ③冷暖房設備・加湿器・リネン等が効率良く稼働するように、定期的な点検・清掃・業者との調整業務を行った。また、職員によるポリリッシャーを使用した床洗浄も行った。
- ④車両管理では、定期的な点検・清掃業務を実施し、安全性・快適性の向上を図った。新たに車両管理表を作成・運用し、車両運行の調整を行った。運転前のアルコールチェックも継続して行い、事故なく運転業務を遂行した。
- ⑤施設管理関係書類の整理、保管に努めた。また、各種マニュアルについては、必要に応じて更新するよう努めた。

相談課活動報告

1. 方針

施設経営の安定に稼働率が大きく影響することから、相談員は待機者の確保と迅速な入居調整、ショートステイの空床利用を積極的に行い、稼働率維持に努めた。相談係は、ご利用者を第一に尊厳の保持やご家族、地域の方々の安心のため「相談・調整・連携」を重要な役割と認識し、相談援助業務を行った。また施設内外の専門職等との調整役を担い、施設の中核として、ケアの質の向上、人材育成・定着、地域創り、経営の安定化を図った。

2. 活動報告

1) 経営の安定化

ユニット型施設運営に伴い稼働率の維持・向上の為、入退居の推移を見極めながら入居調整を行うと共に、特例入所（5名）や短期入所も積極的に受入れ、地域貢献に努めた。ご利用者の経済面の軽減には、生計困難者に対する軽減制度（社福軽減）の適用により、低所得の方にも入居が可能になるよう努めた。新規申込者獲得のため営業活動にも力を入れ、他の事業所、医療機関、各施設等に情報提供を行った。また緊急性の高い方や困難事例にも積極的な入居調整を多職種連携により行い、様々なニーズに応え、年間入居率は97.37%（昨年度より増減なし）と維持することができた。

2) 人権擁護・身体拘束廃止

ご利用者の「尊厳」に対する意識の向上に努めて、適切なケアが行えるように、要望・苦情委員会及び虐待防止・身体拘束廃止委員会を担当者として実施した。また職員研修の講師や職員向けに二種類のアンケート（不適切ケア・虐待の芽）を行い、人権擁護を推進した。

3) 相談援助・ご家族への支援

ご利用者の身近な相談や要望は傾聴・助言を基本とし、関係部署と協働のうえ、対応に心掛けた。また、経済面や権利擁護、制度的な相談に対しては、きめ細やかに対応し、外部機関とも連携を取り、ご利用者、ご家族が安心して生活できるよう支援した。また、施設内の情報共有をもとに、ご利用者の生活のご様子、体調不良や転倒等について、ご家族等へ速やかに情報提供を行う事に努めた。ご家族と連絡を取る事により、離れて暮らしていてもご利用者を身近に感じていただく事ができたと思われる。ご利用者の生活を援助するのみでなく、ご家族が安心できるよう各種行政手続き等に関する相談支援や情報の提供に努め、必要に応じ介護保険制度等の助言や協力を行った。

4) リスクマネジメント

ご利用者の安全については、安全対策委員会及び係長会議等を通じ、環境整備や予防について具現性を重視した取組みに参画し、事故防止に努めた。事故発生の際は多職種連携で原因分析及び再発防止に努め、ご家族へ詳細に報告を行うことで信頼関係の構築に努めた。

5) 行政との調整・制度の活用

ご利用者の経済的な部分を含め、行政や制度を活用し、安心して暮らせるよう支援した。

1. 入退居状況

入居者の保険者別推移では、区部、市部、郡部、他県共に変わらず幅広く入居されている。新規相談については、営業活動による新たな事業所や西多摩特養ガイドからの問い合わせにより、幅広い地域からのニーズに対応出来た。年齢状況では90歳以上の方が全体の41%在籍され、例年同様に大半を占めている。他の年齢別にみると100歳を超えた入居者は1名（-4名減）となり、また今年度は60歳未満の方や70歳台前半の方の入居があり、平均年齢は87.03歳（-1.14歳）と減少している。できるだけ健康で元気に過ごしていただけるよう、今後も自律支援を念頭に置いた支援を心掛けていく。

(1) 保険者別入居状況

令和7年3月31日現在

区 市 町 村 名	男	女	計	区 市 町 村 名	男	女	計
足立区	0	1	1	国分寺市	0	2	2
文京区	0	1	1	府中市	1	4	5
世田谷区	0	2	2	町田市	0	1	1
練馬区	0	1	1	小平市	1	0	1
豊島区	0	2	2	西東京市	0	1	1
千代田区	0	1	1	多摩市	0	1	1
新宿区	0	2	2	市部計(17)	20	28	48
品川区	2	0	2				
大田区	0	1	1	檜原村	7	34	41
区部計(9)	2	11	13	瑞穂町	1	0	1
				郡部計(2)	8	34	42
八王子市	3	7	10				
あきる野市	1	5	6	和光市(埼玉県)	0	1	1
日野市	1	1	2	新座市(埼玉県)	0	1	1
昭島市	1	0	1	身延町(山梨県)	0	1	1
立川市	2	1	3	宇都宮市(栃木県)	0	1	1
福生市	1	1	2	八千代市(千葉県)	0	0	0
三鷹市	1	1	2	川崎市(神奈川県)	0	1	1
清瀬市	2	3	5	飯山市(長野県)	0	1	1
東大和市	1	0	1	他府県計(6)	0	6	6
調布市	2	0	2	合計(34)	36	81	117
青梅市	2	1	3				

(2) 性別及び年齢の状況

	60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計
男	1	0	1	6	2	12	7	5	2	0	36
女	0	0	0	2	4	14	19	27	13	2	81
計	1	0	1	8	6	26	26	32	15	2	117
	平均年齢		男	82.44	女	89.06	全体	87.03			

(3) 月別入退居状況（入居前及び退居の理由別）

入退居状況は、入居数が42名（15名増）で退居数が38名（8名増）といずれも増加となった。入居経路について、在宅からの入居が他施設（老健等）及び病院と比較して多く全体の6割を越え、在宅生活困難による施設入居希望が考えられる。また在宅からの入居では、特養での医療面の期待も大きく、引き続きこれに応えていく必要がある。入居受け入れに際しては、緊急度が高い方、困難事例や特例入所の受け入れ等を積極的に行ったことで、社会福祉法人としての役割の一端も果たせたと思える。退居については、住みなれた施設で最期を迎えたいとの要望が多く、終の棲家として施設を捉えているご家族や後見人等が多くみられた。ご利用者やご家族のご意向を踏まえつつ今後も安心・安全・安住の施設として社会貢献していく。

	入 居				退 居			
	在宅	他施設	病院	計	死亡	在宅	入院 他施設	計
令和 6年 4月	4	1	1	6	5	0	0	5
5月	3	1	0	4	2	1	0	3
6月	1	0	1	2	2	0	1	3
7月	5	1	0	6	5	0	0	5
8月	3	0	0	3	0	0	1	1
9月	1	0	2	3	3	0	0	3
10月	1	0	1	2	4	0	0	4
11月	1	2	1	4	1	0	1	2
12月	1	1	0	2	4	0	0	4
令和 7年 1月	3	0	0	3	2	0	0	2
2月	4	0	0	4	3	0	0	3
3月	1	1	1	3	3	0	0	3
計	28	7	7	42	34	1	3	38

(4) 死亡者の状況

病院で亡くなられた方も急性期加療目的による入院から重症化に繋がっている。ご利用者及びご家族からの施設でのターミナル希望の方は依然として多く、今後ご利用者、ご家族の要望を受け入れるべく、医療と連携した質の高いターミナルケア（緩和ケア）の提供に努めていく。

年 齢 別	性 別		死 亡 場 所		引 取 人	
	男	女	施設	病院等	家族	その他(後見人)
65歳 未満	0	0	0	0	0	0
65歳～69歳	0	0	0	0	0	0
70歳～74歳	0	0	0	0	0	0
75歳～79歳	3	0	3	0	2	1
80歳～84歳	2	2	3	2	4	0
85歳～89歳	2	1	3	0	3	0
90歳～94歳	6	6	10	1	11	1
95歳 以上	1	11	12	1	11	1
合 計	14	20	31	4	31	3

(5) 法人墓地埋葬状況

身寄りの無い方、親族と疎遠の方については、ご家族、生活保護実施機関、成年後見人と協議し、平成29年度に檜原村人里笛吹地区に移転した法人墓地に埋葬・供養を行っている。尚、令和6年度は永眠された方の法人墓地への埋葬は無かった。今後も親族がおられても、引取りが困難な場合の受け皿として、菩提寺である檜原村玉傳寺の協力もいただきながら、埋葬の受け入れを行っていく。

年 度	S56～H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	改葬	計
埋葬柱数	60	1	3	4	1	4	4	1	0	0	2	0	0	0	△2	80

(改葬△2はご家族・親族引取り)

(6) ご利用者 在籍期間状況

例年通りに1年未満～1年以上の在籍期間のご利用者比率が高く41.5%（前年比18人増）を占めており大幅な増加となった。近年新規入居の方の健康面や環境変化等の理由から在籍期間が短くなっている。一方で、在籍期間が5年以上の方は36名おられ、在籍期間が長くなることは施設のケアの質の評価に繋がっていると思われる。今後も終の棲家として、ご利用者の安心・安全と共に医療面の充実により、健康で安定した生活が営めるよう努めていく。

在苑期間	1年未満	1年以上	2年以上	3年以上	4年以上	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	計
男	13	6	1	8	1	4	3	0	0	36
女	20	10	8	10	4	20	9	0	0	81
計	33	16	9	18	5	24	12	0	0	117

(7) ご利用者懇談会実施状況

ご利用者懇談会は原則毎月開催し、施設サービスへの反映及びサービスの向上を図る事を目的として、ご利用者の要望・ご意見等を伺っている。懇談会であがった内容は係長会議、要望苦情委員会等で議題提起することにより、施設としての課題を共有し、多職種連携で問題解決する仕組みとして機能し、サービス向上に繋げている。また、施設からのお祝い事や行事予定の説明、生活に関わる情報等も随時お伝えして情報提供を行った。お茶と季節の軽食（おやつ）を用意し、茶話会の雰囲気を作り、屈託のない意見を頂戴することができた。開催の際は積極的に参加されるご利用者もおられ、楽しみにされている様子が窺えた。ユニット内で過ごす時間に楽しんで頂けるように、懇談会資料に季節の歌・塗り絵等を入れ込み工夫に努めた。

実施月日	懇 談 会 内 容	開催の有無
4月30日	5月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
5月30日	6月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
6月30日	7月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
7月30日	8月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
8月29日	9月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
9月27日	10月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
10月29日	11月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
11月28日	12月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
12月28日	資料配布のみ	開催
1月31日	2月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
2月27日	3月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催
3月31日	4月行事・感染症・意見、要望受付・お茶会	開催

(8) 介護度別入居状況（在籍者数）

介護度の分布は要介護1～2の方は全体の約17.7%（昨年比2.1%増）増に対し、特例入所の件数は5件（昨年比4件減）と減少していた。平均要介護度が低下している理由として、入居されてから介護度が下がっている方の増加や介護度の高い方の退居が要因と思われる。次年度も引き続き地域包括ケアシステムの推進から、住宅及び家族状況も踏まえつつ、特例入所、緊急性、困難事例、行政からの依頼等については、介護度のみを問わず、積極的に受け入れを行っていく。

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護度 1	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
介護度 2	14	16	16	14	15	16	16	17	16	17	18	18	16
介護度 3	44	46	46	48	53	53	53	54	54	55	57	57	52
介護度 4	35	33	31	34	32	32	31	28	31	28	27	28	31
介護度 5	19	18	19	18	12	15	15	15	14	14	15	15	16
旧措置（介護度 1）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 2）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 3）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 4）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 5）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	115	116	115	118	116	119	118	117	118	117	120	121	118

(9) 介護度別入居数（延べ日数）

入居率は令和6年度入居42名、退居38名と例年に比べて入退居の数が非常に増加した状況のなか、短期入所を合わせ97.37%（昨年比：増減なし）となった。緊急性の高い方や困難事例の入居及び緊急も含む短期入所等の受け入れを積極的に行った結果である。昨年度から始めた営業活動により行政及び医療機関や新規事業所等から新規ご利用者を取り込めたことが、入居数の大幅な増加に繋がったと思われる。短期入所は地域中心に受け入れを行い、こちらも新規ご利用者の増加に繋がった。尚、平均介護度は軽くなっている。

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護度 1	90	93	90	124	124	90	93	90	93	93	84	93	1,157
介護度 2	436	496	480	465	465	463	515	510	496	504	491	544	5,865
介護度 3	1,256	1,406	1,369	1,472	1,626	1,590	1,628	1,596	1,645	1,677	1,542	1,694	18,501
介護度 4	962	964	911	938	977	890	888	852	928	858	712	845	10,725
介護度 5	546	558	542	502	434	388	444	425	434	434	420	426	5,553
旧措置（介護度 1）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 2）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 3）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 4）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧措置（介護度 5）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3,290	3,517	3,392	3,501	3,626	3,421	3,568	3,473	3,596	3,566	3,249	3,602	41,801
平均介護度	3.33		入居率 (短期入所含まず)			97.05			入居率 (短期入所含む)			97.37	

介護課活動報告

1. 方針

介護課職員に対する4つの行動基準を徹底した。①安全を優先する。②相手の立場に立って行動する。③自身の役割を意識する。④ご利用者の大切な時間を守る。同時に各専門職は、それぞれの「役割」「責任」「権限」を明確にし“自ら考え行動できる”人財育成を目指した。

2. 活動報告

1) ユニット型特養における専門性

満足度に繋がる5つの基本ケア①起きる②食べる③排泄④清潔⑤アクティビティ、安心に繋がる3つの専門ケア①日々の健康管理②看取りケア③認知症ケアと心に寄り添うケア、接遇マナー・コミュニケーションスキルが提供できる人財育成に努めた。

2) 個別ケアの実現

今年度も、ご利用者・ご家族の要望を踏まえ“顧客満足度CS”“暮らしの継続”の視点で、「その人らしさアンケート」を実施したが、感染症のため提供できないサービスもあった。また、個々の能力に応じた自律支援を念頭に個別ケアの提供に努めた。

3) 24時間シートの活用

今年度も、ユニットケア（個別ケア）の核となる24時間シートの更なる充実を図るため、暮らしぶりを知ることの重要性、ケア時間の目安の把握から見える化を徹底し、職員・ご家族に周知することで業務の標準化・効率化に繋がった。

4) 人財育成と役割

今年度も、入職後の期間に合わせ適切な時期に行う研修（新人研修3回/年）、また次世代リーダー層（中堅）に向けて、人財育成と仕事の遣り甲斐や、チーム創りに繋げる研修を実施した。資格取得推進に於いては、認知症基礎研修、喀痰吸引研修、介護福祉士資格、介護支援専門員資格取得のための勉強会実施等を通じて、育成指導を図った。

5) ユニットケアの質の向上と職場内研修

ユニット内研修では、ユニット毎に課題とした勉強会・外部研修報告、専門職による勉強会、事例検討や委員会活動において取り組んだ。発表は感染症発生に伴い次年度へ延期とした。また、生産性向上に繋がる業務負担軽減や、効率化を踏まえICT導入に向け機器展への参加や委員会を通じて、次世代介護機器（見守りセンサーベッド）を20台導入した。

6) 施設サービス計画

施設サービス計画の作成に当たり、ご利用者ご家族等の要望を踏まえ、看取りケアの充実、体調変化時の情報提供に他職種連携で努めた。また、事故防止とリスクの共有からご利用者主体と自律支援を念頭に各係の連携を強化し、ケアマネを中心に計画作成に努めた。

7) 高齢者虐待と事故防止への支援

今年度、高齢者虐待の理解を深め防止に繋げるため、檜原村地域包括に研修の講師を依頼し実施した。事故防止については、影響度分類を用いて、重大事故の類似事故リスクの認識向上及び事故防止に努めた。

介護課(各係活動報告)

1. 健康管理係活動報告

- 1) 介護と看護、相談係との連携を強化すると共に、夜間緊急対応マニュアルの更新、医療情報共有・看取りケア及び喀痰吸引の充実を図ることで、ご利用者の健康と安心に繋がった。
- 2) 死亡者34名の内、施設内死亡者31名、うち看取りケア6名であり、施設の役割“終の棲家”看取りケア”の重要性がわかる。ユニットケアの提供と多職種連携により、その人らしく住み慣れた環境の中で、人生の最期をご家族と共に穏やかに迎えらるる支援ができた。
- 3) 感染症対策では、職員・面会者・業者の手洗いの徹底・マスク着用・ソーシャルディスタンスを促し、感染症の施設内持ち込みと蔓延防止の指導及び入所時の抗原検査を行い、感染防止を図った。しかし、新型コロナ及びインフルエンザ感染症が蔓延してしまった。
- 4) アロマセラピーの活用を広げ、ユニット内で導入することで、血行不良、浮腫みの改善や看取り期のサポートなどに役立てた。

2. 栄養管理係・調理係活動報告

- 1) 地産地消に力を入れ、畑を借りて大根や白菜を作るなど檜原村の食材を積極的に取り入れ、季節を感じていただける食事をメニューに取り入れ提供した。
- 2) 檜原村社会福祉協議会委託による配食サービス及びデイサービスの昼食提供に努めた。
- 3) 管理栄養士による栄養ケア計画書を作成し、栄養面を把握(栄養アセスメント)すると共に歯科医師やケアワーカー等とカンファレンスを通じて、「食事と健康」「経口維持」を強化することができた。
- 4) 感染症対策により長く実施ができなかった、他係職員と協働で行うホーム喫茶『柚』を実施し、手作りおやつで食の楽しさを提供した。

3. リハビリ係活動報告

- 1) 個別訓練計画のモニタリング、理学療法士による再評価を3ヶ月に1度行い、個別機能訓練計画のご家族への送付及び同意をいただき、機能訓練を提供することができた。
- 2) 新型コロナウィルス感染症が確認されてからは初めて、以前の形態で各種訓練、参加型活動訓練の実施が計画通り行えた。また従来同様、多職種連携から生活リハビリの推進を図ることができ、身体機能の維持・向上に繋がった。

4. 生活支援係活動報告

- 1) 基本的ケアの標準化を目的に、主任会議、リーダー会議などで振り返りを行った。ユニットによって業務内容等に差があり、業務の見直しや虐待に繋がる接遇マナーが課題となった。
- 2) 看取りケアでは、ご利用者のご家族との最期の時間を大切にし、聴き取りなどでニーズの把握を行い、可能な限りの暮らしの継続を行った。アルバム作りやアロマケアなども実施し苦痛の緩和や、思い出の回想などで、最期の時間を大切にサービスを提供した。
- 3) その人らしさアンケートや24時間シートなどの活用を通じてニーズの把握を行い、情報共有や意見交換を行い、可能な限りのその人らしい暮らしの継続のサービスの提供を行った。

1. ケアプラン策定及び認定調査（更新）状況

(1) ケアプラン策定・サービス担当者会議及び認定調査（更新）状況

サービス担当者会議は介護支援専門員が中心となり、相談係・生活支援係・健康管理係・リハビリ係・栄養調理係の担当者が原則出席のうえ開催した。ケアプラン策定はアセスメント票・モニタリング表・総括表に基づいて、心身の状況を踏まえて利用者本位の視点で行った。認定調査は各保険者との連携のもとで公正かつ的確に要介護認定の更新を行うことが出来た。

	対象者数 (会議回数)	ご利用者 出席延べ数	ご家族 出席延べ数	職員 出席延べ数	合計(人)
4月	11	1	0	77	78
5月	12	0	0	76	76
6月	12	0	0	70	70
7月	8	0	0	43	43
8月	9	0	0	55	55
9月	10	0	0	62	62
10月	12	0	0	66	66
11月	9	0	0	57	57
12月	7	0	0	45	45
1月	10	0	3	62	65
2月	10	0	0	67	67
3月	12	0	2	70	72
計	122	1	5	750	756

認定調査実施 累計表	対象者数（更新）	調査実施数（検原苑委託）	調査実施数（他事業所）
	55名	19名（内16名※檜原村）	36名

(2) 日常生活動作・介護等状況

介護の種類	一部介助	全部介助	認知症（行動障害）	68	
食事	18	12	オムツ使用	23	
排泄	59	29	夜間のみ	34	
着替え	58	21	褥瘡	4	
爪切り等	15	93	発生場所	施設内	3
入浴	70	28		施設外	1
寝返り	11	21	感染症（総数）	50	
移動	34	26	①新型コロナウイルス	45	
車椅子使用	84		②インフルエンザ	5	
歩行器	25		経管栄養	3	

2. 事故及びヒヤリハット報告

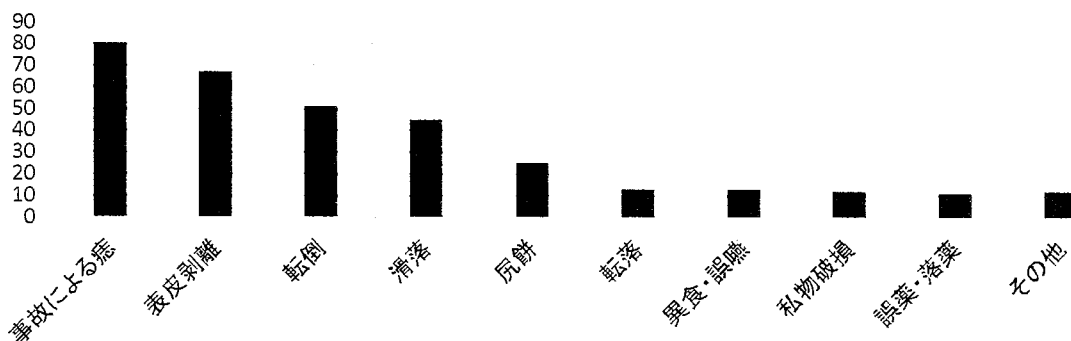
(1) 令和6年度 事故及びヒヤリハット報告状況

今年度の桜原苑では事故報告書の提出が355件・ヒヤリハット報告提出が1675件報告された。前年度比で、事故件数は11.3%減少、ヒヤリハット報告は11.7%減少した。ヒヤリハット報告書の減少は令和5年度下半期から導入を行った影響度分類（有害事象の階層分類）を参照したことによる影響（分類に応じた処理方法の変更）が大きな要因として挙げられる。事故件数の減少については、影響度分類を導入したことで過去の事故報告書を参考事例として振り返る機会が増加し、過去に起きた類似事故リスクの認識向上、事故情報の共有化が職員間で図られた結果ではないかと考える。

(2) 事故報告の内訳（分類）

事故報告355件中、最も多かったのは、事故による痣で80件、表皮剥離67件、転倒51件、滑落45件、尻餅25件、転落13件、異食・誤嚥13件、ご利用者の私物（衣類、食器など）の破損など私品トラブルの項目で12件、誤薬・与薬漏れ11件と続く。

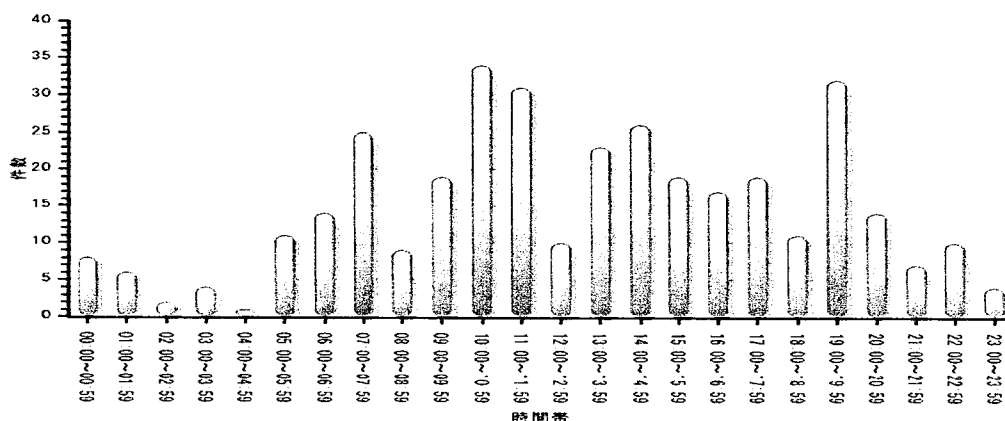
発生分類別 集計



(3) 事故発生場所と事故発生時間

事故発生場所では、居室での発生や発見が最も多く全体の54.7%を占め、次にリビングの24.6%、浴室（脱衣所含む）の9.78%と続く。浴室の場合、入浴介助の際に痣や傷等を発見したものがその大半である。また、事故がいつ発生しているかを時間帯別に集計したところ、ご利用者の動きが多い10:00～10:59・11:00～11:59・19:00～19:59の時間帯に事故が多いことが伺える。

時間帯別集計



(4) 事故発生場所と重大事故の発生について

今年度の保険者(市区町村)に報告するような骨折、誤薬、等の重大事故は23件(前年度比で3件増)で、内訳は以下の通りである(骨折9件、誤薬13件、外傷による通院処置等1件)。令和5年度下半期から事故の影響度分類を導入。事故の影響度から分析を行い、重大事故につながる恐れが高いご利用者を早急に情報の共有化、対策を行い、重大事故を未然に予防できるよう安全対策委員会主導のもと、実務者に対する指導育成に引き続き力を入れていく。

3. 健康管理関係実施状況

ご利用者の重度化に対し施設看護師を中心に主治医・地域医療機関・ご家族・施設内専門職との連携を図り、施設で提供できる医療ニーズにできるだけ対応するよう努めた。また、体調不良者には状況に応じて、主治医からご家族に面談や電話連絡等で病状の説明や治療方針等の説明の機会を設ける事で、早期対応に繋がることから、積極的に主治医・ご家族・相談係等の連絡調整を行った。定期的に主治医による訪問診療が行われ、同時に定時連絡や体調不良時も主治医にすぐに連絡が取れる体制があることから早期対応が図れた。日々のご利用者の健康管理は、介護現場からの申し送りや看護師によるユニット訪問で状態把握を行った。また、要観察者の情報提供や状態観察等の事項は細かく提示し、医療面での全職種間の情報共有に努めた。

前年度の医療面の実績報告は以下である。外部受診（檜原診療所）における主治医の来苑診察は、前年度より25%減少、臨時薬処方17.6%減少している。臨時薬処方の減少は、一定期間でモニタリングを行い適切な時期に上申し、定期薬への切り替えや、若しくは臨時薬終了、または処方継続等医療介入を的確に繋いだことによるもの。（看取り期におけるご入居の身体的苦痛の緩和に活かされている）また、精神科領域では精神科からの社会的入院患者の入居受け入れや精神科の入院歴・既往のあるご利用者の増加に伴い、より専門的医療の提供の必要性が伴うが、入院・通院ともに令和6年度は減少がみられた。認知症や精神疾患のあるご利用者が施設で安定した生活を送るためにも、診察に伴う内服変更など、今後も精神科医師との連携が必要と考える。協力医療機関の檜原診療所とは配置医として24時間常に連絡が取れる体制が維持されており、早期発見・早期対応（上申・通院検査など）が可能となり安心に繋がっている。

（1）施設内診察等利用状況

定期診察	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	33	39	30	28	34	27	39	10	26	23	29	27	345
	延べ人数	47	60	45	36	43	35	55	18	43	30	31	31	474

※原則毎水曜日午後：主治医診察 ※入居者数は、118人

上申業務	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	21	52	67	62	34	48	35	21	44	56	51	60	581
	延べ人数	91	123	148	132	59	78	59	69	103	98	97	122	1,179

※随時：主治医への電話による相談 ※年間実人数 152人（ショートは除く）

投薬業務	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	定期薬	111	111	112	114	117	117	117	117	117	117	117	118	1,385
	臨時薬	17	22	17	15	13	17	11	5	14	17	22	26	196

訪問歯科	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	108	110	106	109	109	107	109	108	109	109	109	108	1,301
	延べ人数	410	425	415	385	410	412	419	414	418	420	424	388	4,940

※伊奈たけのご歯科 / 毎火曜（診療及び口腔ケア）・毎土曜（口腔ケア）

精神科医	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	診察	9	7	9	12	17	13	9	6	8	7	5	8	110
	巡回	107	111	111	113	116	115	116	116	117	114	116	117	1,369

※2回/月：契約精神科医診察

(2) ご利用者診療状況

協力医療機関通院実数				嘱託医、協力医療機関以外への通院等			
区分		実人員	延人員	医療機関	診療科	通院実数	
						実人員	延人員
檜原診療所	内科	10	10	阿伎留医療センター	内科	1	4
	CT	6	6	"	眼科	1	3
	歯科	0	0	"	整形外科	2	10
	レントゲン	14	15	"	外科	1	2
	その他	3	3	"	泌尿器科	1	1
P E G 交換	4	6	"	脳外科	1	1	
丘日の出ヶ病院				"	救急外来	1	1
				"	ペースメーカー検査	1	1
				福生病院	脳神経外科	0	0
				立川病院	脳神経外科	1	1
計		37	40	野口眼科		7	15
協力医療機関入院実数				馬詰眼科		2	8
区分		実人員	延人員	青梅総合病院	脳神経内科	0	0
日の出ヶ丘病院 内科		2	2	"	内科	2	2
				"	整形外科	0	0
				"	婦人科	0	0
				"	精神科	1	1
				西八王子病院	精神科	1	1
				なな皮膚科		1	1
				八王子山王病院	整形外科	0	0
				徳洲会病院	救急外来	0	0
計		2	2	計		23	51

(3) 入院先状況

	内 訳		実 人 員			延 人 員		
	医療機関	診療科	男	女	計	男	女	計
1	阿伎留医療センター	内科	4	0	4	4	0	4
2	"	整形外科	1	2	3	1	2	3
3	日の出ヶ丘病院	内科	2	1	3	2	1	3
4	青梅総合医療センター	内科	0	1	1	0	2	2
5	目白第二病院	内科	1	0	1	1	0	1
6	災害医療センター	内科	1	0	1	1	0	1
7	井之頭病院	精神科	1	0	1	1	0	1
8	駒木野病院	精神科	0	1	1	0	1	1
9	山田病院	精神科	0	1	1	0	1	1
10	西八王子病院	精神科	0	0	0	0	0	0
合 計			10	6	16	10	7	17

(4) 月別年間入院者数

※入院日及び退院日は含まず

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院人数	3	5	3	1	0	2	4	3	2	2	0	1	26
入院延べ日数	90	87	51	8	0	24	32	24	14	21	0	14	365

(5) ご利用者健康診断状況（レントゲン・採血・心電図）

実 施 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定 期 健 診	11	12	17	6	11	10	9	10	10	11	12	13	132人

(6) ターミナルケア（看取り介護）

桧原苑では、施設内での終末期を望まれる方について、従来より緩和ケアを行っており、ターミナルケアの要望を踏まえ穏やかな生活が送れるような体制構築に努めてきた。今年度もご利用者及びご家族の意向に沿った中で協力医療機関との連携を図り、ターミナルケアの提供を行い、多くのご利用者が施設内で最期の時を迎えられる事ができた。（8割以上のご利用者が施設での最期を選択されている。）桧原苑では入居した日から看取り期であると考え、QOL/QODの向上に努めている。協力医療機関である「檜原診療所」の全面的な支援を受け、引き続き住み慣れた馴染みの環境の中、身体的にも精神的にも負担の少ない「その人らしい」最期を迎えていただけるよう努めていく。今後も看取りが必要とされる中、施設としてよりご利用者・ご家族の期待（桧原苑で最期を迎えられて良かったと思っただく）に沿えるよう多職種協働で看取りケアを提供していく。尚、施設内でターミナルケアに移行する前に亡くなるケースは多くあり、高齢や慢性疾患からくる急変に至っている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死 亡 者 数	5	2	2	5	0	3	4	1	4	2	3	3	34
施 設 内 死 亡 者 数	4	1	1	5	0	3	4	1	4	2	3	3	31
タ ー ミ ナ ル 数	0	1	1	1	0	0	2	0	1	0	0	0	6

(7) 感染症対策

新型コロナウイルスが5類となったものの、施設としては病原菌を持ち込まない事を一番に、職員の感染の認識を高め予防対策を行った。今年度も、施設内クラスターが発生するリスクから、感染症対策委員会を開催し、①感染症対策マニュアルの初動徹底 ②感染症勉強会（防護服着用など） ③近隣等の感染情報共有等を行った。また施設内の感染防止のため、出勤時の検温測定、普段と違うと感じた時には無理せず、自己検査（キット配布）を実施した。家族面会も含め感染症対策を大きく緩和したことから、感染のリスクが大きく、一部ユニットで感染（コロナ・インフルエンザ）が蔓延した。引き続き、阿伎留医療センター主催の秋川流域感染対策ネットワークフォーラム等に参加し、感染時の認知症ケアの学びを深め、全職員の感染症対策への意識をさらに高めるべく苑内での研修に組み込み、感染防止に努めていく。

①新型コロナウイルス対策 / インフルエンザ予防対策

1. 予防接種の実施（本人またはご家族同意のもと）※新型コロナワクチン・インフルエンザ
2. 手洗いの励行・マスク及びフェイスシールドの着用・ソーシャルディスタンス・消毒の徹底
3. 適正な湿度温度の管理・定期的な換気の施行
4. 面会者、訪問者への感染予防理解のお願い
5. 職員による感染予防と感染症予防研修（防護服着用・コロナ及びノロ発生時の処理など）
6. 地域における新型コロナウイルス等の流行情報の把握（他施設との情報共有）
7. 交流制限と簡易検査キットによる早期確定診断（抗原検査）

インフルエンザ予防接種及び新型コロナワクチン7回目実施状況

	利用者	職員	計
インフルエンザ予防接種者	105	70	175
新型コロナワクチン7回終了	89人 (75%)	0人 (0%)	89

②肺炎予防対策（協力医療機関：たけのこ歯科）

- ・誤嚥性肺炎の予防のため、歯科医師や歯科衛生士と連携し口腔機能維持に努めた。
- ・口腔ケアマネジメント計画書の作成及び、毎月開催の口腔カンファレンスに参加した。
- ・診療内容報告書及び、口腔の健康状態の評価内容を受けて、安全な食事摂取に努めた。

③疥癬予防対策

- ・新規入居時、病院からの退院時の衣類については、除去機による感染処理で対応を行った。
- ・皮膚疾患等のある場合、ご家族等の同意のうえ経過観察や必要時受診の対応を行った。
- ・ご利用者の痒（かゆ）み等の訴えを聞き、早期発見に努めた。
- ・発生予防のため、定期的に業者による苑内全域の消毒を行った。

④C型肝炎・B型肝炎・梅毒予防対策

- ・新規入居時には、情報の問い合わせを行い、必要に応じて感染症検査を行った。

⑤結核予防対策

- ・各ご利用者の誕生日に胸部レントゲン撮影を行った。
- ・入居時、胸部レントゲン撮影を行い、既往歴があるご利用者は経過観察を行った。

⑥0-157予防対策

- ・栄養調理係と連携をとり、感染防止に努めた。また、厨房職員は毎月検便を実施した。更に職場内研修を実施する事により感染防止に対する知識を高め、発生者はなかった。

⑦ノロウイルス予防対策

- ・職員の出退勤時の手洗い徹底、ご家族の面会時の手洗い手指消毒への協力依頼・持ち込み品の制限等にご協力を頂き、ご利用者にも摂食時や帰苑時の手指消毒の協力により発生者はいなかった。また、ノロ対策セット（新聞紙・予防衣・靴カバー・手袋・黒ゴミ袋・シーツ・ハイター・清拭用タオル）を各所に設置した。

（8）職員健康診断

①生活習慣病予防検診

- ・職員健康診断は、4月～8月に全職員を対象に、11月は夜勤勤務職員対象に健康診断を実施した。異常が認められた職員には、二次検査などの指導を行った。

②メンタルヘルスでは、ストレスチェックの実施及び面談の推進を図った。※令和6年度精神面が理由の休職者はいなかった。

4. 栄養調理関係実施状況

栄養調理係は引き続き地産地消に力を入れ、畑を借りて、じゃがいも・大根・白菜などを作ると共に檜原村の食材（山菜含む）を積極的に取り入れ、季節を感じていただける食事をメニューに取り入れ提供した。またご利用者の栄養面の把握（栄養アセスメント）では、ケアワーカー・看護師・医師・歯科医師・歯科衛生士等との多職種連携に留意し従事するよう心掛けた。また、管理栄養士は配食サービス及びデイサービスの昼食に伴う社協との連携に努めた。

献立は、当苑の栄養摂取基準に準じ設定し作成した。下記の値は今年度提供分の1日3食摂取時の平均値である。（別途おやつについては含まない）次年度も予算内での創意工夫を試み、真心込めた食事づくりや利用者にとって「美味しい」「元気の源になる食」の提供に努めていきたい。

（1）栄養量の状況

区 分	エネルギー (キロカロリー)	タンパク質	カルシウム	V. A	V. B1	V. B2	V. C	鉄
栄養基準量	1,500	58.5	650	500	0.80	0.95	100	6.0
平均	1,379	33.9	549	542	0.73	0.81	82	6.9
摂取量（％）	92%	58%	84%	108%	91%	85%	82%	115%

（2）食事・食形態の状況（令和7年3月末現在）

今年度は、昨年度と比べて多少のばらつきはあるが、3月末時点では、極細食とゼリー食が減少した。厨房では、多職種（医師・歯科医師・歯科衛生士・看護師・ケアワーカー等）連携により「美味しい食事」と適正な食事形態での経口摂取の維持、「誤嚥性肺炎の低減につながる食事形態」の提供に繋げてた。施設では、効率化から新調理システムで活用を推進し、業務効率化と、調理師の技術向上に努めた。

【食事形態（3月末現在）】

基礎食：常食（一般食）、軟食（刻み、極細、ゼリー）

コントロール調整食として糖尿食、減塩食の実施

食 事 形 態	基 礎 食 ()は令和5年度値	コントロール食 (加リ・ナリム)
一 般 食	59 (53)	0
刻 み 食	44 (36)	0
極 細 食	11 (16)	0
ゼリー食（流動食含む）	1 (2)	0
経管栄養食（胃ろう）	3 (3)	0
計（食）	118 (110)	0

・その他、低栄養、食欲不振の方へは栄養補給食として栄養補助飲料を提供した。

・療養食加算対象者 0名

(3) その他実施状況

①配食サービス（デイサービス含む）

檜原村と檜原村社会福祉協議会の委託を受け、配食サービス（デイサービスの昼食含む）を提供した。デイサービスは祝日・年末年始以外の平日、配食は火・木曜日にそれぞれ提供。月別の食数の合計は以下の通りである。（昨年比：デイ4.1%増加 / 配食7.9%減少 ※全体：0.3%減少）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デイ	323	340	332	343	310	310	355	313	315	289	283	292	3,805
配食	190	197	177	165	164	151	199	164	159	149	128	119	1,962

②栄養マネジメント作成状況

栄養マネジメントは未実施の場合減算となることから、引き続き栄養ケア計画を作成した。次年度も引き続き計画書を作成し、より良いケアに繋げていく。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
同意数	34	28	39	-	45	34	33	42	39	36	47	43	420

③地産地消

地産の野菜（山菜含む）や、施設の畑で採れたじゃがいも、大根、白菜等をメニューに取り入れて檜原苑ならではの食事の提供を行った。地元で採れた地産の食材も取り入れ、手作りすることを心掛けた。ご利用者にも、配食サービスにおいても地産の野菜を使用した旨を周知をした。

④食事懇談会

例年、食事懇談会を開催しているが、今年度も新型コロナウイルスの影響があって開催できなかった。コロナ5類となり、人々の流れが寛容になってきたことから来年度は多職種連携を推進し「ゆず（喫茶ルーム）」を使用し、檜原苑喫茶の開催を試み「作る人」「食べる人」の共食を通し、交流を深めていく。

⑤食事摂取困難者に対する食事援助（嚥下困難者、褥瘡発症者、その他）

介護食用のゼラチン、増粘剤の使用による調理、個人の状態に合わせた対応、栄養補助食品、摂食嚥下困難者用食品の使用を行った。

⑥検査用保存食

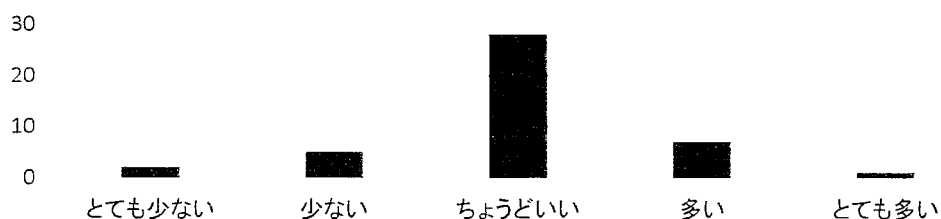
保存期間：14日間 保存温度：-20℃ 食品毎に種分けし、原材料、調理済を各50gずつ保存

⑦嗜好の把握及び献立への反映

嗜好調査は、アセスメント記入時の他、ミールラウンド時に聞き取りを行った。配食サービスのアンケート（40件）結果では、肉類や天ぷら、うどんが食べたいという意見が多かった。味付け・量・硬さともに「丁度いい」と回答された方が最も多く、量が多いという回答が8名であり、少ないという回答が7名であった。次年度もモニタリング、ヒアリング、アンケートを実施し、献立作成や調理する上で活かしていく。

残菜調査は2月に行った。全体的に残菜率は低かった。野菜系のメニューの残菜が高めであった。嗜好調査・残菜調査の結果と合わせ、ご利用者の摂食状況を把握し、献立作成に活かしていく。

全体量について



⑧ソフト食の導入検討

嚥下食の配慮に伴い、調理師によるなめらかな食感の副菜の開発を継続している。個人の咀嚼力に合わせ「食に寄り添う」実践を試みている。

⑧ユニットの衛生管理と手作りおやつサポート

大量調理衛生管理マニュアルに準じ、ユニット共同生活室でのキッチンと冷蔵庫での食材管理があるため、ケアワーカーへの衛生指導等を行った。ユニット調理の提供のため、管理栄養士・栄養士が定期的にキッチンの衛生面のチェック・冷蔵庫内の衛生状況及び保存方法・賞味期限の確認を行い、衛生管理不十分なユニットに対して指摘し、定期的にモニタリングをし、綺麗で清潔さを心がけた。ユニットでは「手作りおやつ（ユニット調理含む）」を実施しており利用者の嚥下に配慮したおやつ作りの技術指導も実施、多職種連携を深め、ご利用者には、ユニット理念である「温もりある暮らし」と「食の楽しみ」を提供出来た。

⑨厨房会議の実施

今年度厨房会議を2回行った。厨房会議では秩序について話し合い、報・連・相をしっかりとすることや衛生面の徹底が挙げられた。厨房会議は次年度も適宜、開催していく。

(4) 食費関係の状況

近年の物価高騰（食材・燃料費）を受けて限られた予算内で、ご利用者に寄り添い、真心込めた食事の提供に努めてきた。地産地の食材の活用や新たに食材納品先の変更を実施することで価格を抑え、また様々な調理の工夫により、桧原苑らしい満足度の高い食事の提供を心かけた。今後も地域の皆様やご利用者から「桧原苑の食事は美味しい」「食事が美味しいから選ばれる桧原苑」を目指し、当苑の味を管理栄養士・調理員・職員で共有し、「美味しく・安全な食事づくり」に努めて行く。

区分	朝	昼	夜	日額
案 分 比 率	2/10	5/10	3/10	¥828 (昨年¥850)
実 績 単 価	¥166	¥414	¥248	
食 数	116.8	158	116.8	

単価、食数は1年間の平均延数とする（職員・配食含む）

(5) 食事時間

区分	朝 食	昼 食	夕 食
食 事 時 間	7:30~9:30	12:00~14:00	18:00~20:00
配 膳 時 間	各 15 分 前		
検 食 時 間	各 15 分 ~ 30 分 前		
検 食 者	宿直者	日勤者	宿直者

(6) 非常給食用備蓄飲食物表（備蓄日数 3日/利用者120名分+30名分）

BCP対策義務化に備え、備蓄食品はご利用者120名分の他に駆けつけた職員・地域の方が避難された場合の分も含めて備えている。ローリング・ストックをしつつ、献立にも応用している。

主 食	マジックライス	1,600食	果 物 缶	フ ル ー ツ 缶	96 缶
副 食	さんま蒲焼き缶	60 缶	飲 み 物	す り り ん ご 缶	24 缶
	やきとり缶	48 缶		甘 味	飲 料 水
	たまごスープ	150 個			非常用ドロップス
	かぼちゃのスープ	150 食			
	即席味噌汁	800 食			
	非常用梅干	240 粒			

(その他副食用缶詰類備蓄有)

5. リハビリ関係実施状況

(1) 個別機能訓練実施状況

個別機能訓練では、QOLの向上に即した日常生活動作の実用性向上をご利用者の優先利益ととらえ、理学療法士や機能訓練指導員が身体機能、能力の評価を行い作成した「個別機能訓練計画書」の内容をもとに各訓練を実施した。訓練内容は日常生活動作（介助含む）が個別機能訓練の機会となるよう生活支援係と協同し、ケアワーカーへ日常生活動作上での介助方法の提案・指導（評価含む）・実施（記録含む）を行った。これにより今年度もご利用者の客観的な活動量の把握、継続性の高いプログラムの実施、またPDCAサイクル※1の活用によりご家族及び多職種間の情報共有と目標管理が行え、リハビリ業務の円滑化とリハビリ機会の向上を図ることができた。

※1 Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善) の4段階を繰り返して継続的に改善する方法

表1. 個別機能訓練月当たり件数（生活リハビリにおける訓練件数含む）

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別機能訓練実施件数	1,278	1,250	1,106	1,195	1,266	1,243	1,146	1,096	1,024	993	1,001	1,802	14,400

※新型コロナウイルス感染症による影響はみられたものの、感染症対策範囲の変更に伴うユニット単位での開催が可能となり、大幅な実施数の減少はみられなかった。

(2) 個別機能訓練加算請求状況

今年度も全てのご利用者に対して理学療法士や機能訓練指導員が身体機能、能力の評価を行い多職種の意見を踏まえた上で「個別機能訓練 生活機能チェックシート」「個別機能訓練計画書」を作成し、以降原則3ヶ月毎にモニタリング評価・再アセスメント評価を実施。「個別機能訓練・生活機能チェックシート」を記録・参照媒体とし、「個別機能訓練計画書」の変更・修正を適宜行った。この計画書をご家族へ送付し、同意が得られたご利用者のみ加算請求対象とし、算定を行った。

表2. 個別機能訓練加算Ⅰの請求状況（多職種共同で個別機能訓練計画を作成し、訓練を実施した際に算定）

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
算定割合（％）	80.7	85.5	87.1	85.8	88.1	87.5	85.7	84.9	86.5	87.3	83.3	85.0	85.6
算定日数（日）	2,880	3,002	2,912	3,027	3,057	2,856	2,988	2,932	3,087	3,007	2,756	3,064	35,568
単位数	34,560	36,024	34,944	36,324	36,684	34,272	35,748	35,184	37,044	36,084	33,072	36,768	426,708

表3. 個別機能訓練加算Ⅱの請求状況（個別機能訓練計画書等の情報を厚労省に提供し、必要情報を活用した際に算定）

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
算定割合（％）	80.7	85.5	87.1	85.8	88.1	87.5	85.7	84.9	86.5	87.3	83.3	85.0	85.6
算定日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
単位数	1,920	2,020	1,980	1,980	2,020	1,980	1,980	2,000	2,040	1,980	2,020	2,040	23,960

(3) QOL及び活動機会の向上、社会参加機会の増加を目的とした訓練の実施状況

音楽療法士、機能訓練指導員、理学療法士による心身の評価を行い、各訓練に適應するご利用者に対し、訓練の提案・実施を各感染症への留意・対策のうえ、職員やご利用者同士でコミュニケーションを行いつつ実施した。訓練の種類は作業訓練、集団体操、音楽療法、簡易作業訓練、嚙下体操、書道クラブ、ホーム喫茶「柚」である。作業訓練では各階多目的ルームで週2回火曜日・金曜日の午前中に実施し、編み物、縫物、紙工作等の手工芸を行った。訓練で完成した作品は苑内での展示や、他施設の展示会に出展した。昨年度同様、同法人関連施設「ひのきのその」での展示会に加え、檜原村社会福祉協議会協力のもと「やすらぎの里」にて展示会を開催した。また「ひのきのその」の展示会では、職員同伴のもとご利用者と共に軽食を楽しみながら展示されている作品の観覧をすることが出来た。集団体操では体操、風船バレー、お手玉入れ、輪投げ、合唱を実施。簡易作業、嚙下体操では、エプロンたたみ、おしぼり巻きなどを行って頂いた。嚙下体操では、主に食事前に生活支援係職員主導のもと実施。音楽療法では、各フロア多目的ルームを使用し音楽に合わせ楽器の演奏や合唱を中心に実施。加えて12月には音楽療法参加者を対象に音楽療法慰労会を行い、音楽療法士によるピアノ演奏や軽食を楽しんで頂く機会も提供出来た。書道クラブでは、季節の言葉を中心とした書写、ならびに作品の展示を行った。長らく新型コロナウイルス感染症により見送られていたホーム喫茶「柚」では、栄養調理係と協業のもと、手作りの各種軽食、飲み物を喫茶スペースにてご利用者に提供することが行え、計画通り再開することが出来た。

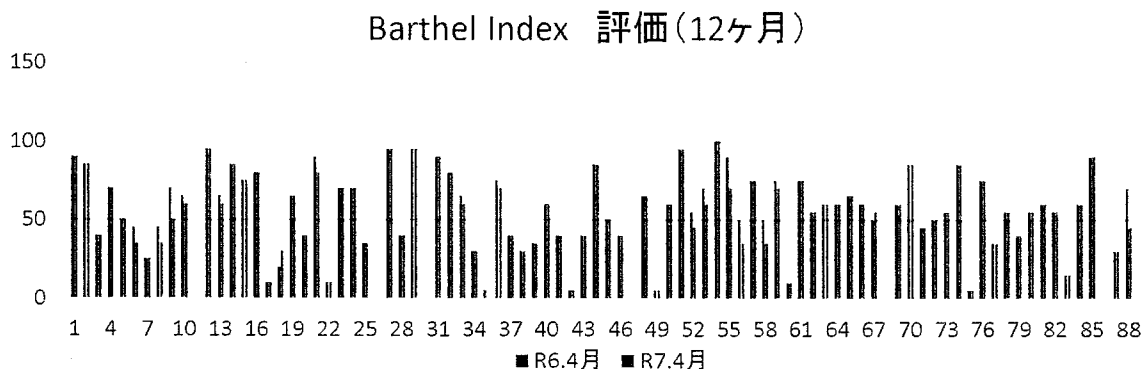
表3. 活動・参加型訓練月当たり件数

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
作業訓練	81	80	74	63	63	91	77	80	70	50	59	53	841
集団体操	87	80	72	79	64	9	116	114	39	59	64	53	836
音楽療法	30	22	33	22	11	12	0	0	18	9	18	10	185
嚙下体操	1,112	1,098	1,319	1,123	1,283	1,431	1,248	1,499	1,735	1,525	1,525	1,859	16,757
書道クラブ	23	21	24	30	30	20	21	23	37	34	26	25	314

(4) 個別機能訓練及び活動・参加型訓練実施におけるADLの推移

個別機能訓練（生活リハビリにおける訓練件数含む）・計画外訓練実施により施設全ご利用者を対象としたADL推移（評価方法は「Barthel Index」を用い、12ヶ月で評価）は以下となった。

表4. ADL推移



6. 行事等実施状況

(1) 全体行事実施状況

事業計画に基づき、全体行事として以下の行事を実施した。コロナ禍ではあったが全体行事はできるだけ感染防止に留意しつつ季節感を感じられるような工夫を凝らした行事の提供に努めた。

実施月日	行事名称	実施場所	参加人員
4月5日～30日	桜の花見	人里・都民の森・数馬周辺	35名
5月5日	端午の節句（菖蒲湯1日～5日含む）	各ユニット玄関・多目的スペース・苑庭	117名
6月16日	家族会	1階 防災拠点型地域交流スペース	47名
6月（未実施）	地域交流会	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	0名
6月（未実施）	檜原保育園との交流会	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	0名
7月1日～7月31日	作品展示会	やすらぎの里3階スペース	—
7月12日	苑内消毒	全館	実施済み
7月7日	七夕	各ユニット・喫茶ルーム	114名
7月17日	盆供養	1階 防災拠点型地域交流スペース	17名
7月27日	納涼夏祭り	1階、玄関前・防災拠点型地域交流スペース	中止
8月毎週月曜日	花火夕涼み会（2ユニット毎にて実施）	1階、玄関前及び喫茶室（雨天中止あり）	117名
8月25日	自治会・消防団との合同防災訓練	1階 防災拠点型地域交流スペース 他	32名
9月18日	秋祭り	1階玄関及び廊下・各ユニット玄関（展示のみ）	113名
9月11日	敬老の集い	各ユニット	38名
9月2日～30日	ひのきのその展示会及び見学	ひのきのその	25名
9月17日	十五夜	各ユニット	113名
9月19日	彼岸供養	1階 防災拠点型地域交流スペース	34名
9月29日	敬老福祉大会	新型コロナウイルス感染症対策の為招待なし	0名
10月15日	十三夜	各ユニット	118名
11月5～30日	紅葉狩り	人里休暇村他	83名
11月10日	家族会	1階 防災拠点型地域交流スペース	40名
11月14日	檜原学園（小学校）との交流会	1階 防災拠点型地域交流スペース	30名
12月1日	開苑記念日	各ユニット巡回にてお祝い	118名
12月（未実施）	地域交流会	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	0名
12月6日・13日	お楽しみ会	1階 喫茶室	18名
12月9日	苑内消毒	全館	実施済み
12月19～24日	冬至（柚子湯）	各ユニット浴室・機械浴室	117名
12月25日	クリスマス	各ユニット	118名
12月27日	餅つき	1階 防災拠点型地域交流スペース	29名

次葉へつづく

※全体行事続き

実施月日	行事名称	実施場所	参加人員
令和7年1月1日	新年交歓会	各ユニット巡回にてお祝い	116名
1月10日	苑内初詣	1階、防災拠点型地域交流スペース	111名
2月3日	節分	各ユニット巡回にて実施	116名
3月3日	桃の節句	各ユニット・1階ロビー	117名
3月22日	彼岸供養	1階、防災拠点型地域交流スペース	25名
ご利用者 延べ数 (人)			1,955名

7. 生きがい活動実施状況

(1) 図書クラブ活動状況 (移動図書館利用状況)

檜原村立図書館と連携し、移動図書館「やまぶき号」巡回訪問を喫茶ルーム「柚」を活用して、実施した。移動図書館の職員とも馴染みの関係となり、ご利用者の好みの本を用意いただいた。

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日	3日	1日	5日	3日	7日	4日	2日	6日	4日	8日	5日	5日	12回
利用者参加数	15	16	20	17	19	18	18	15	14	18	14	17	201名

(2) 生け花クラブ

華道有段者や経験者の職員を中心に月に1回実施した。生ける花や、花器・花瓶をお好みで選んでいただき、生けた花は居室に飾り楽しんでいただくことが出来た。※写真クラブは、対象者の機能低下や人員不足等の理由から実施困難となった。

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日	18日	16日	19日	18日	22日	27日	17日	21日	26日	23日	20日	19日	12回
生け花クラブ参加数	28	23	24	25	26	27	26	30	30	27	30	27	323名
写真クラブ参加数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0名

(3) 書道クラブ活動状況

基本は月に1回、多目的スペースにて実施した。季節に添った手本を用意し、「青田・花火・月見・初冬・寿・春風」等書かれた。また職員によるリクエストに応じた文字を書く等、ご利用者各々で楽しまれていた。

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日	4日	2日	19日	11日	8日	5日	3日	7日	5日 19日	1日 9日	6日	6日	15回
利用者参加数	23	21	19	23	27	20	21	23	37	34	26	25	276名

(4) 理髪・美容の利用状況

「杉本出張理美容店」「訪問カットサービス三須理美容」に依頼し、カットやパーマや毛染めなどご利用者の要望に幅広く応えられるよう実施した。ゆったりとした時間とスペースの中で、よりおしゃれに毎日を過ごしていただけるよう支援した。感染予防対策の観点から一部中止とした月もあった。

杉本理美容

内容\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
カ ッ ト	3	7	3	3	3	4	1	3	3	6	0	1	37名
パ ー マ	0	1	1	1	1	1	1	0	1	3	0	2	12名
染 毛	4	5	4	2	3	4	1	3	1	6	0	5	38名
合 計	7	13	8	6	7	9	3	6	5	15	0	8	87名

三須理美容

内容\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
カ ッ ト	38	37	38	31	25	48	30	46	33	42	37	22	427名
パ ー マ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0名
染 毛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0名
合 計	38	37	38	31	25	48	30	46	33	42	37	22	427名

(5) ユニット活動状況

ご利用者アンケート「その人らしさアンケート」の要望を踏まえ、遠方外出（買い物・外食）・近隣外出（お花見・紅葉狩りなど）・ユニット行事（ユニット毎に異なる行事）をユニット毎に企画した。近隣外出（村内外出）は、村内の方との地域交流（桧原苑広報活動含む）と位置づけ、ご利用者からの交通費の徴収は行わず、気軽なユニット外出として積極的に実施した。今年度も、ユニットごとに課題をあげて、ユニット内で勉強会（各30分程度）を開催した。

①ユニット行事（杉ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近 隣 ・ 遠 方 外 出	2	1	1				1	2		1			8回
手 作 り お や つ		1	1	1	1		1			1	1	1	8回
お 誕 生 日 会		1		1	1	1				1	1	1	7回
そ の 他 の 行 事				1	2		1		1	1	1		7回
ユ ニ ッ ト 勉 強 会	1						1				1	1	4回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見②いちご狩り③買い物(イオン)④昭和記念公園⑤買い物(しまむら)⑥紅葉狩り⑦イオン

☆手作りおやつメニュー：①カフェモカケーキ②ボルパルタン③パンケーキ④フルーツケーキ

⑤こんにゃく⑥アップルパイ⑦マルタバ⑧抹茶のムースケーキ

☆その他の行事：①夏祭り②花火大会③スイカ割り④焼き芋⑤クリスマス会⑥苑内初詣⑦節分

☆ユニット勉強会：①上期事故の振り返り(4月)②下期事故の振り返り(10月)③感染初動(2月)

④ガウンテクニック(3月)

②ユニット行事（檜ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	3	1	1			1	1	3					10回
手作りおやつ		1		1		1							3回
お誕生日会		1		1	1	1	1	1		1			7回
その他の行事						1			1				2回
ユニット勉強会							1				1	1	3回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見 ②ふれあいの里③高畑不動④イオン⑤宮ヶ瀬湖畔⑥紅葉狩り

☆手作りおやつメニュー：①ケーキ②どら焼き③ケーキ④かぼちゃタルト

⑤さつま芋クリームチーズタルト⑥ケーキ⑦パウンドケーキ

☆その他の行事：①流しそうめん②クリスマス会

☆ユニット内研修：①上期事故振り返り（10月）②感染初動（2月）③ガウンテクニック（3月）

③ユニット行事（樫ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	1					1	1	1					4回
手作りおやつ						1		1		1		1	4回
お誕生日会	1		2		1			1	1				6回
その他の行事		1		1		1	1		1				5回
ユニット勉強会	1	1		1	1			1	1	2	1		9回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見②イオン③イオン④紅葉狩り

☆手作りおやつメニュー：①チョコムース②マルタバ③バナナチョコ④チョコフォンデュ

☆その他の行事：①デザートバイキング②流しそうめん③居酒屋④クリスマス会

⑤カラオケ大会

☆ユニット勉強会：①チームワーク向上について（4月5月）②事故リスクについて（6月7月）

③ガウンテクニックについて（11、12月）④薬学研修（1月）

⑤感染初動について（2、3月）

④ユニット行事（櫻ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	1					1		1					3回
手作りおやつ			1			1		1					3回
お誕生日会	1	1		1	1		1		1				5回
その他の行事		1		1		1			1		1		5回
ユニット勉強会	1	1	1	1				1	1			1	7回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見②イオンモール日の出③紅葉狩り

☆手作りおやつメニュー：①ホットケーキバナナ①小豆豆腐③芋羊羹④チョコレートケーキ

⑤フルーツケーキ

☆その他の行事：①デザートバイキング②流しそうめん③チョコレートフォンデュ④花火大会

⑤クリスマス会

☆ユニット勉強会：①チームワーク向上について（4月5月）②事故リスクについて（6月7月）

③ガウンテクニックについて（11、12月）④感染初動（3月）

⑤ユニット行事（松ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	1							1					2回
手作りおやつ				1				1			1		3回
お誕生日会		1	1			1	1		1	1	1		7回
その他の行事					2				1				3回
ユニット勉強会						1			1	1	1	1	5回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見②紅葉狩り

☆手作りおやつメニュー：①スイカスムージーとミニどら焼き②りんごと紅茶のケーキ
③チョコバナナ

☆その他の行事：①夏祭り ②花火大会 ③園芸 ④クリスマス会

☆ユニット勉強会：①アロマケア（9月） ②感染初動対応（12月・1月）
③ガウンテクニック（2月・3月）

⑥ユニット行事（桐ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	3						1	1					5回
手作りおやつ		1											1回
お誕生日会		1	1		1		1	1	1	1			7回
その他の行事				1	1				1				3回
ユニット勉強会						1			1	1	1	1	5回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見 ②紅葉狩り ③グループ外出

☆手作りおやつメニュー：①季節のフルーツによるフルーチェ

☆その他の行事：①スイカ割り ②花火大会 ③園芸

☆ユニット勉強会：①アロマケア（9月） ②感染症初動対応（12月・1月）
③ガウンテクニック（2月・3月）

⑦ユニット行事（椋ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	2			1	1		3	1					8回
手作りおやつ			1										1回
お誕生日会	1		1					1	1	1		1	6回
その他の行事				1	1		1		1		1		5回
ユニット勉強会									1	2	1		4回

☆近隣・遠方外出：①花見②いちご狩り③紫陽花④滝祭り⑤イオン⑥歌舞伎⑦お墓参り⑧紅葉狩り

☆手作りおやつメニュー：①ショートケーキ

☆その他の行事：①スイーツバイキング ②流し素麺 ③4F合同運動会 ④クリスマス会
⑤おでん屋

☆誕生日会：①手作りケーキ（パウンドケーキ・チョコレートケーキ、抹茶ケーキ）

②アップルパイ ③ヨーグルトゼリー ④紫陽花ゼリー

☆ユニット勉強会：①感染初動（12月・1月） ②ガウンテクニックについて（1月・2月）

⑧ユニット行事（桜ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	2	1		1	1		2	1	1				9回
手作りおやつ		1	1	1									3回
お誕生日会							1	1		1	1	1	5回
その他の行事				1	1		1		1		1		5回
ユニット勉強会									1	1			2回

☆近隣・遠方外出：①花見 ②苺狩り ③動物園 ④紫陽花 ⑤滝まつり ⑥歌舞伎
⑦紅葉狩り⑦イオン（10月・12月）

☆手作りおやつメニュー：①スイカケーキ②水羊羹③スイカ・かき氷

☆その他の行事： ①スイーツバイキング②流しそうめん③4F合同運動会④クリスマス会
⑤おでん

☆ユニット勉強会： ①感染初動（12月） ②ガウンテクニック（1月）

⑨ユニット行事（桃ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	1				1		1	1					4回
手作りおやつ	1	1	1	1			1	1		1	1		8回
お誕生日会	1	1	1	1			1	1	1	1			8回
その他の行事					1	1	1	1	1				5回
ユニット勉強会	1								1	1	1	1	5回

☆近隣・遠方外出：①桜の花見 ②紅葉狩り ③イオンモール ④檜原村花火大会

☆手作りおやつメニュー：①抹茶風蒸しケーキ ②ジャガイモのドーナツ③きな粉アイス、肉まん
④そうめん ⑤カップケーキ⑥ホーム喫茶、どら焼き⑦フレンチトースト
⑧コーヒーゼリー

☆その他の行事： ①スイカ割り ②花火大会 ③4F合同運動会 ④ホーム喫茶 ⑤クリスマス会

☆ユニット勉強会： ①光洋オムツのつけ方の研修 ②ガウンテクニック研修（12月・1月）
③感染症の初動動きの研修（2月・3月）

⑩ユニット行事（楓ユニット）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
近隣・遠方外出	1							1					2回
手作りおやつ	1	1	1	1			1	1		1	1		8回
お誕生日会	1		1				1				1		4回
その他の行事					1		2		1				4回
ユニット勉強会		1						1	1	1	1		5回

☆近隣・遠方外出：①桜花見②紅葉外出

☆手作りおやつメニュー：①アップルパイ②デザート餃子③ベビーカステラ④おやつ串カツ
⑤2色団子⑥栗羊羹⑦ミニピザ⑧チョコパイ、ウインナーパイ

☆その他の行事：①8月スイカ割り ②10月4F合同運動会/餃子パーティー ③12月クリスマス会

☆ユニット勉強会： ①おむつのあて方（5月） ②ガウンテクニック（11月・12月）
③感染症初動（1月・2月）

8. 専門研修・階層別研修実施状況

(1) 専門研修（グループワーク形式）

介護職員のケアの質の向上を踏まえ、専門研修会を企画した。各研修会は1回2時間程度の研修とし、講義・ディスカッション形式で開催した。

実施回数	内 容	参加人数
全ユニット (5月～3月)	新型コロナウイルス感染症研修及び訓練 ①初動対応研修及び訓練 ②ガウンテクニック研修及び訓練	ケアワーカー 全員
【前 期】 5月～10月 (計6回)	1. 高齢者虐待防止について (講師：檜原村包括主任ケアマネ長田氏) 2. BCP/防災について (講師：防災委員会) 3. 感染症対策について (講師：研修委員会) ※9月までに修了せず10月に追加研修を行った。	84名
【後 期】 10月～3月 (計6回)	1. 高齢者虐待防止について (講師：相談員) 2. BCP/防災について (講師：防災委員会) 3. メンタルヘルスについて (講師：施設長・介護課長) 4. リスクマネジメントについて (講師：安全対策委員長) ※2月までに修了せず3月に追加研修を行った。	83名

(2) 資格取得研修

実施月日	内 容	参加人数
4月～10月 (12回)	介護支援専門員 試験勉強会 「介護支援分野・保健医療サービス分野・福祉サービス分野・模擬テスト」(講師：主任・ケアマネ) ※合格者(2名)	7名
9月～1月 (4回)	介護福祉士勉強会(受験者3名) ※特定技能外国人2名含む ※合格者(1名)	3名

(3) 階層別研修（施設実習含む）

階層／実施月日	内 容	参加人数
新人研修 (4・8月/前期・11月/ 中期・2月/後期)	新規採用者が円滑に業務に移行できるよう各部署の担当が講師を務める。 新人職員に対してチュート制度を導入した。※対象職員は、新卒・技能実習生・外国人特定技能・中途採用(常勤・パート含む)	8名
中堅職員研修 (3月)	1. 介護保険制度について (講師：相談係長) 2. 他職種への理解について (講師：介護課長) 3. コーチングとチームマネジメント力について (講師：生活支援係長) 4. PDCAサイクルについて (講師：介護主任) 5. 専門知識・技術向上・看取りケアについて (講師：看護主任) 6. 尊厳と職員倫理について (講師：施設長) ※次世代のリーダー層を育成すことを目的として開催する。	感染症の 為中止
認知症介護 基礎研修	医療及び福祉の資格を有する職員を除くすべての介護職員を対象に、認知症介護に係る基礎的な研修を受講する。(eラーニング研修) ※特定技能・技能実習生含む	2名
他施設 合同研修	桧原サナホームと合同研修や交流会を通じて、感染症の取り組みを学び交流を通じて日々の情報を共有した。ヨコタホームとの交流会では、交換実習を通じて各事業及び相互の取り組みを学んだ。	4回

9. 地域交流及び家族会実施状況

(1) 施設・地域の交流

実施月日	場 所	内 容 等	人数
6月 (未実施)	1階防災拠点 型地域交流 スペース	【園児との交流会】 新型コロナウイルス感染症対策の為中止した。	0名
7月8日	1階喫茶室他	【檜原学園中学校】 中学校よりキャリア教育の一環として『職業人講話』受入れ依頼あり、体験や職業観を学んでいただいた。	4名
7月11日	檜原学園 小学校	【落語教室】 小学校より招待いただき、今年も参加し小学生と一緒に落語を楽しんだ。	4名
7月 (未実施)	1階防災拠点 型地域交流 スペース	【地域交流会】 地域の方々をお招きし、ご利用者と演芸鑑賞会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策の為中止した。	0名
7月 (未実施)	1階喫茶室	【地域意見交流会】 地域の方々をお招きし、施設見学や介護保険制度等の説明会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策の為中止した。	0名
7月28日	玄関前・1階 喫茶室・防 災拠点型地 域交流ス ペース	【夏祭り(地域交流)】 新型コロナウイルス感染症対策の為、夏祭りは中止とした。その後、別日でご利用者のみの盆踊りを企画したが感染者発生し中止とした。	0名
11月13日	檜原学園 交流会	【小学生との交流会】 檜原小学校1・2年生14名、教員4名をお招きし、歌や学習発表、ご利用者としりとり遊びの交流で一緒に楽しむことができた。	18名
12月 (未実施)	1階防災拠点 型地域交流 スペース	【地域交流会】 地域の方々をお招きし、ご利用者と演芸鑑賞会を開催する予定であったが、インフルエンザ感染症対策の為中止した。	0名
12月 (未実施)	1階喫茶室	【地域意見交流会】 地域の方々をお招きし、施設見学や介護保険制度等の説明会を開催予定であったが、インフルエンザ感染症対策の為中止した。	0名

(2) 家族会実施状況

実 施 月 日	内 容	参加人数
6月16日	令和6年度事業計画及び法改正に伴う料金の変更、感染症対策、令和5年度第三者評価結果などの説明を行った。	47名
11月10日	ユニットケアの取り組み発表、終末期の看取りケアの取り組み、令和6年度第三者評価について評価機関より説明を行った。	40名

在宅福祉サービス事業活動報告

地域包括ケアシステムの推進に応え、高齢者が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように“医療・介護・生活支援・介護予防の充実”を図ることを念頭に事業を行った。在宅福祉部門（居宅介護支援事業・短期入所生活介護事業・障害者短期入所事業）は、地域の拠点としてご家族・保険者（地域包括支援センター含む）・地域医療機関・サービス機関などと連携を密にし、在宅生活に困難さを生じている方（介護者不在・身体機能低下・虐待等）の相談に対して対応を行った。新型コロナウイルス流行の中でも感染対策を施すことで、医療機関からの情報提供や地域包括からの依頼により緊急のショートステイ受け入れも行った。また、檜原村の住宅事情や限界集落的な地域事情の要因などから老老介護による共倒れを防ぐべく、介護休養目的でのショートステイ利用も受け入れを行った。尚、今年度障害者短期入所事業については利用実績はなかった。

次年度も、住み慣れた在宅生活支援を念頭に地域貢献に寄与できるよう努めていく。

1. ショートステイサービス実施状況

新型コロナウイルス感染対策（入所初日の検温や抗原検査の実施など）を行いながら、地域貢献と福祉資源活用の観点から、ショートステイ専用床及び空床を有効に活用することで受け入れを積極的に行った。個室での受け入れであることから、プライバシーの保護や、在宅に近い環境を提供する事ができたことで、より安心して利用していただけた。ショートステイの稼働率は、116.16%（昨年比16.85%増）であった。尚、年間のご利用者実人数は110名（昨年比10名増）で、延べ日数は848日（昨年比124日増）であった。

(1) ショートステイ月別ご利用者数（実人数）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	4	3	3	3	2	2	1	1	1	2	1	0	23
女性	7	6	7	9	7	7	6	6	7	11	8	6	87
計	11	9	10	12	9	9	7	7	8	13	9	6	110

(2) ショートステイ介護度別利用状況（実人数）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1・2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
介護度1	1	2	2	2	1	0	0	0	0	1	1	1	11
介護度2	7	6	6	6	5	4	5	4	4	7	6	5	65
介護度3	3	1	2	3	2	4	2	3	4	4	0	0	28
介護度4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
介護度5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
計	11	9	10	12	9	9	7	7	8	13	9	6	110

(3) ショートステイ介護度別利用日数（延べ日数）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1・2	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11
介護度1	4	7	10	6	10	0	0	0	0	3	7	4	51
介護度2	45	58	48	43	39	34	41	40	30	51	37	31	497
介護度3	23	6	10	43	17	31	18	34	44	32	0	0	258
介護度4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	7
介護度5	0	0	0	0	6	18	0	0	0	0	0	0	24
合計	72	71	68	103	72	83	59	74	74	88	49	35	848

ショートステイご利用者平均介護度 2.25

2. 居宅介護支援事業実施状況

檜原村の高齢化率は50%を超えており、サービス事業者の参入が少ない事から都市部と比較すると受益者にとってはサービス利用について選択肢が少ない状況がある。また山間部に位置し、地形や気候からも土砂災害や河川の増水、雪害等災害についても影響を受けやすい環境があり、ハザードマップからも推察できる状況である。檜原村の先達はこれを充分とは言えないながらも共助で補ってきっていたが人口の半数を超える高齢化は、限界集落化している地域の現状には厳しい状況がある。一方、社会的な問題となっている虐待や老々介護、8050問題については都市部と変わらぬ問題も抱えている。このような状況の中、住み慣れた地域・自宅で安心した生活が継続できるよう、単に要介護者ご本人に着目するのみでなく、効率的な支援やご家族の介護力をサポートする事を心掛け、介護しやすい環境、介護休養確保による心身両面の支援を提案・助言した。また、災害や感染症に対する事業継続計画（BCP）についても策定を行い、ご利用者が安心して過ごせるよう努めた。今後も「地域で暮らせる安心と信頼」及び地域貢献を念頭に置き、関係機関と連携を密にしながら、必要に応じて提案・提言を行ってゆく事とする。

(1) 介護度別サービス計画数（サービス提供実績）※単位：人

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護度1	6	5	5	3	3	2	2	2	1	1	1	1	32
要介護度2	13	13	13	13	12	10	13	13	14	15	15	13	157
要介護度3	6	6	6	6	6	8	7	7	8	7	5	4	76
要介護度4	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	5
要介護度5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	25	24	24	22	21	21	24	23	23	23	22	18	270
新規・再開数	1	1	0	0	1	1	4	1	1	0	1	0	11
終了・休止数	1	0	2	2	1	1	0	1	0	2	4	0	14
予 防 委 託 (要 支 援)	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7

(2) ご利用者の移行状況 ※単位：人

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
特養・老健	1	0	1	2	1	1	0	1	0	2	3	0	12
死 亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
長 期 入 院 そ の 他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	1	0	2	2	1	1	0	1	0	2	4	0	14

(3) サービス種類別計画数（介護給付：実績利用人数）※単位：人

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計 画 の 総 数	25	24	24	22	21	21	24	23	23	23	22	18	270
訪 問 介 護	1	1	1	1	1	3	4	4	3	3	3	3	28
訪 問 入 浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪 問 看 護	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	3	2	25
訪 問 リ ハ ビ リ	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
通 所 リ ハ ビ リ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
福 祉 用 具 数 貸 与	14	15	14	13	12	13	14	15	15	16	14	12	167
短 期 入 所 生 活 介 護	8	9	8	9	8	4	6	7	7	12	10	6	94
短期入所療養介護	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
地 域 密 着 型 通 所 介 護	19	19	19	17	14	13	16	15	16	15	14	13	190
檜原苑短期入所利用	5	7	7	6	8	7	5	7	8	6	7	7	80